



ともに前へ!

特別支援教育に役立つ

# 実践事例等教材・教具集





## はじめに

中津支援学校では、教職員が主体となって一人ひとりの各年度の取組みを成果物として表せるよう「一人1研究」と題し、その教育実践を記録するようにしています。この取組みは、令和元年度「一人1報告」として取組んできたものを、令和2年度以降も継承させ深化させた取組みです。

その内容は、各授業における教材・教具の活用方法や教育の実践事例、また、教職員が校外で行われている研修会から自身の今後の教育活動で活かせるよう取りまとめたもの等、多岐にわたる内容となっています。

今回は、その内容の一部を教材・教具集として発信するものです。今後も内容の充実をめざしています。この「実践事例等教材・教具集」が多くの方々に活用していただけるよう、教職員の研究活動を進めたいと考えています。



## もくじ

### 特別支援教育に役立つ教材・教具

#### 1. 小学部の教材・教具

国語	P4
算数	P16
自立活動	P20
生活	P32

#### 2. 中学部の教材・教具

自立活動	P33
数学	P35

#### 3. 高等部の教材・教具

家庭	P36
自立活動	P38
職業 他	P40
数学	P41
美術	P44
保健体育	P45
外国語	P46



## もくじ

### 活動実践事例

#### 1. 小学部の活動実践事例

交流・共同学習	P48
自立活動	P49

#### 2. 中学部の活動実践事例

自立活動	P51
------	-----

#### 3. 高等部の活動実践事例

自立活動	P52
読書推進	P55

### 研修資料等

人権教育研修（同和問題）	P57
人権研修を受講して①	P67
人権研修を受講して②	P68
地域支援委員会：応用行動分析で指導・支援を考える	P69
地域支援委員会：訪問支援相談 報告会	P75
健康安全指導部：防災士 資格取得	P79
館外出張 報告	P82

### 指導集等

#### 1. 中学部の指導案

外国語	P87
自立活動（みるきく）	P89

#### 2. 高等部の指導案

保健	P90
----	-----

### GIGA スクール構想：1人1台端末 活用事例

活用実践事例	P93
--------	-----



**特別支援教育に役立つ  
教材・教具**



# 教材・教具 小

# みるきく

教科・領域	みるきくつたえる
名称	『夏のおもいで』 大型絵本（紙媒体）、ペープサート
写真 使用方法	   
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 高グループ（5, 6 年生）
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型絵本：コピー機のスキャナー機能で読み取った後、大型印刷機で印刷する。</li> <li>ペープサート：印刷およびラミネート後、ストローをつける。</li> </ul>
使ってみて （効果・反省等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせの際、ページをめくる動きや音から絵本の世界観を感じてほしく、電子絵本ではなく紙媒体の大型絵本にした。</li> <li>お話の中で登場キャラクターが走りぬける様子を、ペープサートを用いて再現した。また、ペープサートを手に取った児童がキャラクターと共に教室を駆け巡り、風やリズム、スピード等をからだ全体で感じることができるようにした。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部




教科・領域	おんがく
名称	北風小僧のかんたろう
写真 使用方法	  
対象児童生徒 学年・グループ	<p>小学部 3, 4 年生</p> <p>3 学期の木曜日のおんがくの授業で使用した。「北風小僧のかんたろう」の歌に出てくるかんたろうの衣装をつけて授業を進めた。児童の注目が集まっているように感じた。また、うちわを持たせることで踊りを踊ることが難しい児童が風を感じたり、風を起こしたりして歌の内容に入り込めるようにした。</p>
素材・作り方等	うちわにイラストを印刷した紙を貼り付ける。
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者が教材に出てくる人物になりきることで、いつもと違う刺激があり集中して授業に取り組めた。手元にイラストが貼られたうちわを渡すことで視覚的な支援になった。</li> <li>反省点ではうちわを握ることが困難な児童もいたので、ゴムをつけて滑りにくくするといい改善が浮かんだ。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部






# 教材・教具 小

# 国語

教科・領域	国語
名称	パネルシアター（泥棒兄弟）
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	<p>小学部C高グループ（4,5年生）  2学期の火曜日、金曜日の国語の授業で使用した。初めは、紙人形のくねくねした動きに驚く児童もいた。慣れてくるとリズムのいい曲に合わせて紙人形を揺らしたり、家やいす等のイラストを話の内容に沿ってタイミングよく貼り付けたりすることができた。家等のイラストの下に「いえ」と書いている札を正確に貼り付けることもできた。話の内容も理解することができていた。</p>
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>型紙を拡大コピーして紙人形や家やいす等の物品を用意する。</li> <li>色づけは、クーピーを使用。</li> <li>紙人形は、頭、腕、足が動くように糸で縫いつけた。</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>パネルシアターにして、いつもと違う刺激があり集中して授業に取り組めた。慣れてくるとリズムのいい曲に合わせて、紙人形を揺らしたりいえやいす等のイラストをタイミングよく貼り付けたりして、楽しみながら取り組めた。セリフは、「いいね」の札をあげることができた。話に登場してきた人物や物の名前をとおしてことばの勉強もできた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



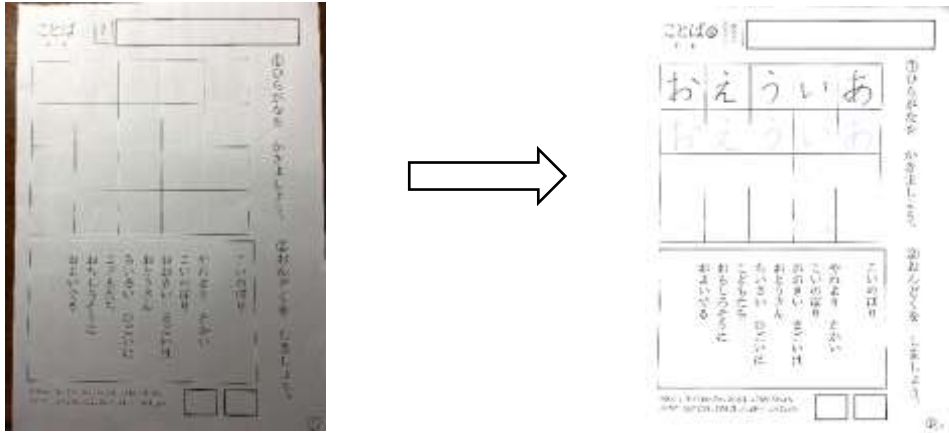
教科・領域	国語
名称	ひらがなプリント①
写真 使用方法	 <p>児童とともに字を読み、そのイラストをはる。 宿題として出す。 答え合わせをする。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	児童の実態としては、平仮名に興味があり覚え始めていて、かたまりとして読んでいる段階である。
素材・作り方等	<p>① PC にインストールされていないフォントを一時的に使えるようにするフリーソフトを活用することで、白抜き文字等のフォントを使えるようにし、書きやすいようにグレー塗りの枠の中に白字でなぞる線を書く。</p> <p>② 右上にイラストをはれる枠を作る</p>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 白地に字を書いたものをなぞるよりも、なぞりやすそうである。</li> <li>・ イラストを見ながら字を書くので一人でも、そのひらがなを読みながら書くことができる。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部





# 教材・教具 小


# 国語

教科・領域	ことば（国語）
名称	ことばの宿題を作るためのひな形
写真 使用方法	 <p>手書きで必要な文字を書き込む。あるいは、薄くなぞれるようにする。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	<p>ひらがなの清音をほぼ書ける児童</p> <p>ひらがなの文章を読み書きすることをめざす児童</p>
素材・作り方等	<p>パソコンで、A4用紙1枚のひな形プリントを作る。ひらがなに慣れ、定着を図るため、音読の課題を必ず入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が、文字を書ける大きさの記入欄にする。</li> <li>ひらがな、カタカナ、漢字等を順次入れていく。</li> <li>短文作りの課題も含め、ひらがなを定着させる。</li> <li>音読に慣れてきたら、読解問題も入れ、次へのステップとする。</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひらがなを一文字一文字読めても、文章を読むのはなかなか難しく、年度始めはなかなかすらすらと読めなかったが、3ヶ月くらい経過した段階で、初めて読む文章においても、ある程度、すらすらと読むことができた。</li> <li>年度末には、拗音などの一部弱い部分の基礎を埋めるため、過去に使用したプリントを挟んだりもすることにより、定着を図ることができた。</li> <li>清音の復習、濁音、撥音、カタカナ、音読に出てくる漢字と進めて1年生の漢字の一部まですすめることができた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	<p>ことばの宿題を作るためのひな形 22種類（ワープロソフト）。</p> <p>ひな形を用いて作成したプリント 100種類以上（A4プリント）。</p> <p>本校 小学部</p>



# 教材・教具 小

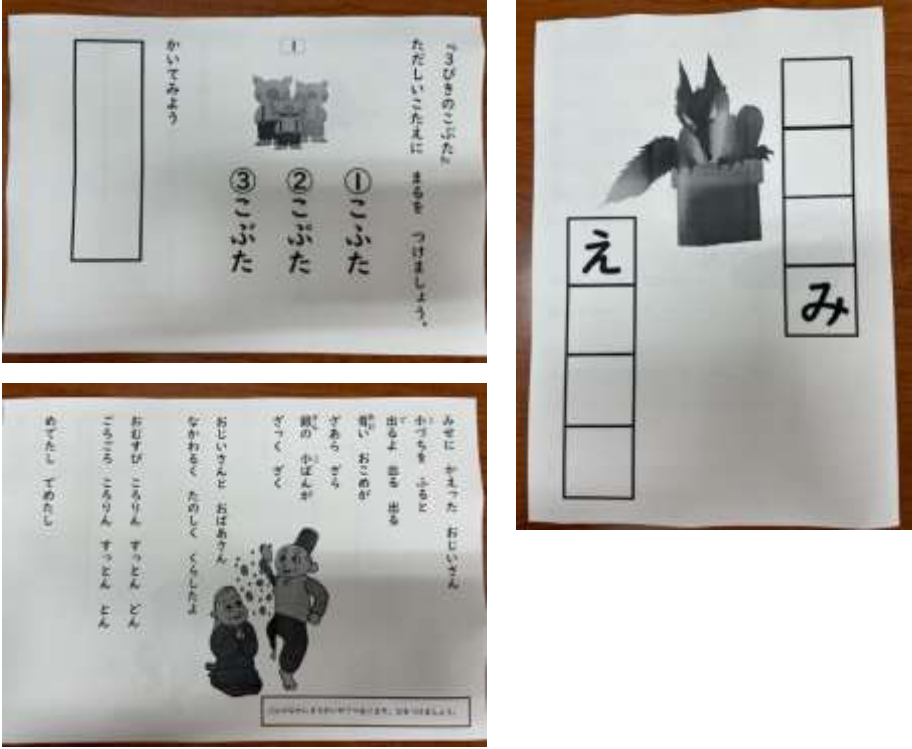
国語

教科・領域	国語
名称	ひらがなプリント②
写真 使用方法	 <p>宿題として出す。 答え合わせをする。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	児童の実態としては、平仮名を1文字ずつ読もうとするようになってきた。
素材・作り方等	<p>① PC にインストールされていないフォントを一時的に使えるようにするフリーソフトを活用することで、白抜き文字等のフォントを使えるようにし、書きやすいようにグレー塗りの枠の中に白字でなぞる線を書く。</p> <p>② 左上にイラストをはっておく。</p> <p>③ 1文字目の平仮名を書く練習をしてから、その言葉を書く練習もできるようにする。</p> <p>④ 児童の実態に合わせて、右の写真のようになぞる線を書いていない枠を2個作っているものもある。</p>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>先に1文字目の平仮名を書くことで、文字が1つずつあることが理解できやすいようである。</li> <li>イラストを張っておくことで、読むヒントにもなり、一人で学習するときにもわかりやすいようである。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



# 教材・教具 小

# 国語

領域	国語
名称	学習プリント「おじいさんとねずみのおはなし」 「3びきのこぶた」
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 小学部 C 高グループ（4, 6 年生）</li> <li>• 音読の練習をしている。</li> <li>• 劇遊びや音読などを通して、お話の内容を理解できつつある。</li> </ul>
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ワードプロソフトで作成する。</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 書きやすい枠の大きさ、読みやすい字の大きさに配慮した。</li> <li>• 児童にとって好きな（興味のある）お話から、書字や読みの学習に繋がった。</li> <li>• まちがいさがしにすることで、一つひとつの言葉を意識して読むことができた。</li> <li>• 児童の様子によって少し内容を変えて、飽きずに取り組めるようにした。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 教材・教具 小

国語

教科・領域	国語
名称	ひらがなカード・カタカナカード
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	<ul style="list-style-type: none"><li>• 小学部 C 高グループ（4, 6 年生）</li><li>• ひらがなやカタカナを習得している段階。</li><li>• 清音はほぼ理解している。</li></ul>
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"><li>• ワープロソフトで作成し、ラミネートをしたあと磁石を貼る。</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 児童の身体機能（麻痺や手の巧緻性など）に合わせて、大きさや分厚さの工夫が必要である。</li><li>• どの程度ひらがなが読めるのか、実態把握に用いることができた。</li><li>• ホワイトボードの上部にイラストカードを貼り、下部に枠を貼ってそこに貼るようにした。1文字ずつ確かめながら取組んでいた。</li><li>• 2セット作成したことで、同時に2人の児童が取組めた。</li><li>• 保存方法に試行錯誤した。</li></ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



# 教材・教具 小

かず・ことば

教科・領域	かず・ことば
名称	文字並べ替え
写真 使用方法	<p>児童の課題に応じて、単語の文字の並び替えの学習を行う。 文字数、知っている文字のみ等選んで、学習したい単語を自由に設定できる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 C グループ
素材・作り方等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学習ノートに課題となる単語のイラストを貼る。</li> <li>② イラストの下に枠を書く。</li> <li>③ Oシールに平仮名を書き、マスキングテープで枠の横に貼る。</li> </ol>
使ってみて (効果・反省等)	児童の課題に応じて、すぐに対応したものを作ることができる。興味のあるもの、その日学習したことや体験したこと等、自由に設定できる。運筆が難しくても、シールを貼って答えることができ、シールの操作も楽しんで取組める。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



# 教材・教具 小

## 国語

教科・領域	国語
名称	ひらがなカード（一文字）
写真 使用方法	 <p>50音 + 促音 + 濁音 + 半濁音があります。</p>  <p>指先に力を入れてもちます。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 C 高グループ
素材・作り方等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ワードプロソフトで作成したイラスト、文字を印刷する。</li> <li>② ラミネートして裏に発砲スチロール板を切ったものに磁石をつける。</li> </ol>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひらがなをカルタのようにして探しながら、単語づくりができた。</li> <li>・ できた単語を見ながら文字練習をすることができた。</li> <li>・ ホワイトボードに張り付けて活用できるため、付け外しが簡単で楽しんでいた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部





# 教材・教具 小

## 国語

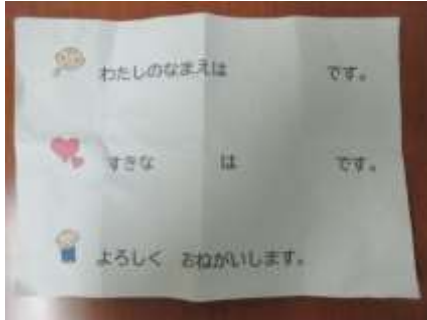


教科・領域	国語
名称	ひらがなカード
写真 使用方法	  <p>裏に厚みをつけています。</p> 
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 C 高グループ
素材・作り方等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ワープロソフトで作成したイラスト、文字を印刷する。</li> <li>② ラミネートして裏に発泡スチロール版を切ったものに磁石をつける。</li> </ol>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発泡スチロール版をカードより小さめにしたため、指を入れてもちやすい。</li> <li>• ひらがな一つ一つ意識することが難しい児童でも形で文字を認識しやすい。</li> <li>• ホワイトボードに張り付けて活用できるため、付け外しが簡単で楽しんで使用した。</li> <li>• イラストのみ、文字のみなど児童の実態に合わせて活用しやすい。</li> <li>• 学習グループの児童の人数分あるため、同時進行で授業活用できる。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部





# 教材・教具 小



かず・ことば

教科・領域	かず・ことば
名称	自己紹介ヒントカード
写真 使用方法	    <p>好きなもの、好きなこと、好きなキャラクター等を自己紹介する場面で、何を話すかのヒントとなるカード。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 C グループ
素材・作り方等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① どんなジャンルで自己紹介をするか決める。</li> <li>② 自分で考えて選ぶのが難しい児童にヒント絵カードを作る。</li> <li>③ ホワイトボードに貼る</li> </ol>
使ってみて (効果・反省等)	好きなものを選んで作ることができる。 交流学习等、自己紹介の場で気軽に使うことができる。字が読めなくても、イラストと写真で流れを思い出して話すことができる。これを見て、できるだけ一人で発表できる。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



# 教材・教具 小

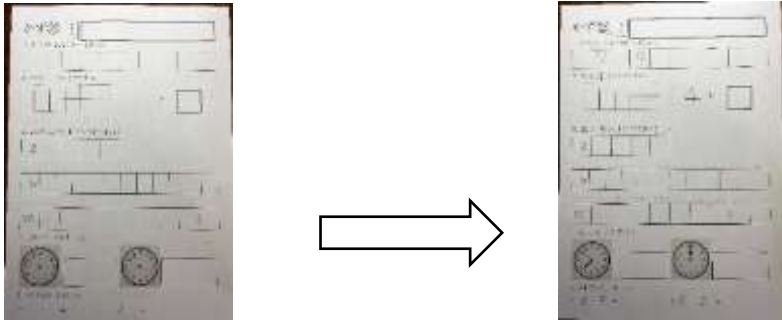
## 算数

教科・領域	算数
名称	お金シート、お金
写真 使用方法	<p>野菜や果物の模型を用意して、買い物学習で使用。 1 円玉は○枚、10 円玉は○枚、100 円玉は○枚かをシートの下部に数字を入力して貼っていく。</p>  
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 C 高グループ
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お金シート 模造紙に 1 円玉、10 円玉、100 円玉を 10 枚貼りつけることができるような部屋を作る。</li> <li>• お金 A4 用紙にカラーコピーをして、ラミネート加工をする。 裏に磁石を貼り何度も使えるようにする。</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お金の種類、枚数が一目でわかる。</li> <li>• 模型を動かすことで、児童の興味が得られる。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



# 教材・教具 小


# 算数

教科・領域	かず（算数）
名称	かずの宿題を作るためのひな形
写真 使用方法	 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ひな形を印刷し、数字を書き込んだり、シールを貼ったり、書字等では、マーカーなどで薄く描き、なぞれるようにするなど、バリエーションをつけて、いろいろなパターンの宿題が簡単にできる。</li> <li>• タブレットを使用し、PDF にペンで書き込むと、簡単に保管できる。</li> </ul>
対象児童生徒 学年・グループ	取組み始めは、1 から 10 までの数唱ができ、数の書字がおおむねできる。10 までの数の大小が分かる。具体物を使って、5 までの数の「合わせていくつ」ができる児童
素材・作り方等	<p>パソコンで、A4 用紙 1 枚のひな形プリントを作る。その時に応じた課題に取組める複数単元の混ざったものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• そのとき学習中の新しい課題を入れる。</li> <li>• 次に取組む単元の基礎となる前段階の課題も含める。</li> <li>• 継続して取組み続ける必要のあるものを取り入れる。</li> <li>• なかなか、理解出来なかったものを繰り返し取り扱う。</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ひとつひとつの課題の量が少なく、継続して毎日取組むことにより、無理なく力をつけることができた。</li> <li>• いろいろな課題、いろいろな段階を取り扱うので、毎日、どんな内容が含まれているのかを確認して持ち帰るなど、興味関心意欲を高めることができた。</li> <li>• 展開の毎日のプリント作りとたくさんのプリント管理はやや負担になったが、同じ段階の児童には、そのまま使えるストックとなった。</li> <li>• タブレットを使うと、簡単に利用することができ、管理が楽になる。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	かずの宿題を作るためのひな形 22 種類（ワープロソフト、PDF）。 ひな形を用いて作成したプリント 100 種類以上（A4 プリント）。 本校 小学部




# 教材・教具 小

# 算数

教科・領域	かず・ことば
名称	数える学習
写真 使用方法	 <p>数えることが課題で、数字を読めるが書けない場合にシールや線引きで答えることができる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部Cグループ
素材・作り方等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学習ノートに課題となる数のシールやイラストを貼る。</li> <li>② 枠を書いたり、○シールに数を書いたりする。</li> <li>③ シールの場合は、マスキングテープで枠の横に貼る。</li> </ol>
使ってみて (効果・反省等)	<p>児童の課題に応じて、すぐに対応したものを作ることができる。興味のあるもの、その日学習したことを自由に設定できる。</p> <p>運筆が難しくても、シールや線引きで答えることができ、書くことへの抵抗なく取組める。</p>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



教科・領域	算数
名称	動物パネル
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	<ul style="list-style-type: none"><li>• 小学部 C 高グループ</li><li>• ものの大小、長短、高低など基本的概念についての課題。</li></ul>
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"><li>• ワードプロソフトで作成し、ラミネートをする。</li><li>• 紐を貼り付けてしっぽを作る。</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 動物のイラストに興味をもち、特にうさぎが好きで、気に入ってもっていた。やりとりをしながら、「うさぎとぶたどっちが大きい？」など質問すると、答えることができた。</li><li>• 大小、長短、高低の学習ができた。</li><li>• 大きい順に並べることもできた。</li><li>• 「なんばんめ」の学習にも取組めた。</li><li>• しっぽのひもの感触が好きで、興味をもって取組めた。</li><li>• しっぽの色や動物の色など、「色」や動物の名前などの学習もできた。</li></ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



# 教材・教具 小

## 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	お箸の練習
写真 使用方法	  <p>※ 同時に色の弁別等の課題も行える。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	ピンチや箸つまみ（指先の巧緻性）に課題のある児童生徒
素材・作り方等	小さい箱やお弁当箱 トレーニング用箸 フェルトボール 消しゴム
使ってみて (効果・反省等)	フェルトボールの大きさを変えたり大小を混ぜたりすることで、ゲーム感覚で楽しんでいた。また、素材を混ぜることで挟みやすかったり滑りやすかったりして、工夫しようとする姿が見られた。
保管場所 又は所有者	本校 小学部





# 教材・教具 小

## 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	個別課題（分別）
写真 使用方法	 
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 高グループ（6年生）
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真カード、キャラクターカード、色カード</li> <li>容器、蓋つき容器</li> </ul>
使ってみて （効果・反省等）	身近なものや色の分別をカードを使って取組んだ。対象児童は、色や形の型はめには確実ではないが、試行錯誤しながら集中して取組む。見て、カードを選んで取って、容器に入れることは興味を持ってできるが、仲間分けを理解するのは難しく、言葉かけや指差し確認が必要であった。
保管場所 又は所有者	本校 小学部





## 教材・教具 小



## 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	スイッチ・玩具 (BD アダプタを利用) 『チワちゃんとあそぼう』
写真 使用方法	<p>① 玩具の電池ボックスの、乾電池と電極端子の間に、BD アダプタの金属板部分を挟む。</p>  <p>② BD アダプタのジャックに、ジェリービーンスイッチのプラグを差し込む。</p> <p>③ 玩具の電源スイッチを ON にする。</p> <p>④ ジェリービーンスイッチを押している間、通電し玩具が動く。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ (1, 2 年生) (令和2年度 ICT 支援機器教材展示会でも展示)
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>市販の電池駆動の玩具 (いぬ: チワワ)</li> <li>BD アダプタ (自作) を乾電池と端子の間に挟む。</li> <li>ジェリービーンスイッチ、全方向 (棒) スイッチ</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の区分2、環境の把握のうちの一つ、『因果関係の理解』の学習に使用。動きだけでなく「キャンキャン」と音声でもフィードバックがあるため、『押している間と動く』ということが実感しやすかったようだった。</li> <li>ポンと叩くだけや、連打する児童もいたが、動きを見て、音を聴きながら、スイッチの押し方を変えている様子も見られた。</li> <li>玩具の動く先に空き缶を並べて倒すことで、活動の終わり、次の友だちとの交代を意識づけることもできた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	ジェリービーンスイッチ (小学部・情報教育部で保管)



## 教材・教具 小


## 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	スイッチ・トイ（スマート乾電池を使用）
写真 使用方法	<p>スマートフォン、タブレットを使ってワイヤレスで玩具の ON/OFF をコントロールできる乾電池型 IoT 機器。専用アプリを使って、タップでの操作の他、声の音量等、様々な操作方法で遊べる。</p>  <p>左写真は、プラレールで、アナウンスサウンド付きの車両を使用。「ガタンゴトン」という走行音や、車掌アナウンスが流れる。</p>  <p>また専用アプリ以外にも、スマート乾電池のコントロールをサポートしている VOCA アプリがあり、音声・画像付きのオリジナルのスイッチを自分で作成することができる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ（1, 2 年生） （令和 2 年度 ICT 支援機器教材展示会でも展示）
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマート乾電池内に単 4 乾電池をセットすると、単 3 乾電池サイズとなり、玩具の乾電池ボックスにセットすることができる。</li> <li>タブレットの画面で直接操作が可能だが、画面タップが難しい児童生徒には、タブレット端末用スイッチインターフェイスと外付けスイッチを組み合わせて使用する。</li> </ul>
使ってみて （効果・反省等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の区分 2、環境の把握のうちの一つ、『因果関係の理解』の学習に使用。動きだけでなく音声でもフィードバックがあるため、『押すと動く』ということが実感しやすかったようだった。</li> <li>コントロールアプリが多機能であるために、児童生徒の実態や理解力に合わせた設定ができた。プラレールについては仕様上、連打するとうまく走らず、フラストレーションをためる児童がいたが、外付けスイッチの入力信号を、指導者側が手動で切って「成功体験」を損なわないようにするアナログな配慮も行うことで、意欲を取り戻して活動できた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	プラレール（本校 高等部および一部は私物） スマート乾電池、外付けスイッチ、 タブレット端末用スイッチインターフェイス（本校 情報教育部）



## 教材・教具 小


## 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	ドライヤー（AC スイッチアダプターを利用） 『スイッチであそぼう』
写真 使用方法	<p>AC スイッチアダプターに外付けのスイッチを接続し、児童が操作する。 風が児童に当たるようにして、感覚でフィードバックできるようにする。</p>  <p>対象を注視できる児童には、ドライヤーの風を利用して、ピンポン玉を吹きあげて提示することで興味を持てるようにする。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ（1, 2 年生）
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドライヤーを ON にし、AC スイッチアダプターに接続。AC スイッチアダプターの電源コードをコンセントに接続する。</li> <li>AC スイッチアダプターの SET スイッチを『ラッチ』（1 回押す毎に ON/OFF が切り替わる）に設定する。</li> </ul>
使ってみて （効果・反省等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の区分2、環境の把握のうちの一つ、『因果関係の理解』の学習に使用。「スイッチを押す」→「風を感じる」の因果関係が直感的で、どの児童にとってもわかりやすかったようで、意欲的な活動がみられた。風が顔に当たるのが苦手な児童がいたが、「押すと止められる」という課題に設定変更することで、同じ教材で学習に取り組むことができた。ピンポン玉の吹き上げを見せると、興味を持って注視し、ピンポン玉の動きを確かめるようにスイッチを操作する児童もいた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドライヤー（本校 小学部プール学習用）</li> <li>AC スイッチアダプター（本校 各学部で 1 台保管）</li> </ul>



# 教材・教具 小

## 自立活動

教科・領域	自立活動（個別）
名称	椅子に座る時間を延ばすための支援
写真 使用方法	<p>○児童机と椅子 ○バランスクッション（背中、座面、足底への刺激） ○足置きマット ○手持ち玩具（自分の服の襟元を口に入れる、近くの人 の髪や襟元を引っ張る、頭を机に打ちつけることを防ぐため）</p> 
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 中グループ（3年生）
素材・作り方等	座面すべり止め（100均）、市販バランスクッション（座面や足置きに 使用も可）、足置きマット（ジョイントマット3枚使用 100均）
使ってみて （効果・反省等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>徐々に落ち着いて座ることができ、現在 20 分程度まで時間が延び ている。学習内容への興味やその日の様子によっても左右される。</li> <li>机を置くことを嫌がったり、立ち上がりたい様子が見られたりした 場合には、手持ちのおもちゃやバランスクッション、足置きマット の位置（取り外すこともある）を変えることで再度落ち着いて座る ことができる場合も多い。その方法を試しても難しい際には、自傷 につながる場合も予想されるため座ることを強要せず、その場でし ばらく立位姿勢のまま過ごしたり、短時間歩いたりすることで気分 転換を図っている。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



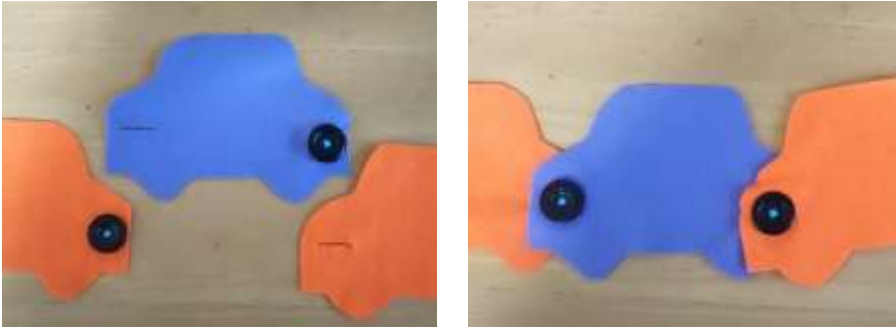

## 教材・教具 小

## 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	個別課題
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 高グループ（6年）
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中が見える小箱、積み木、玩具のスティック</li> <li>• それぞれの小箱の上蓋に積み木、スティックが挿入できる穴をあける</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<p>2つの小箱と積み木、スティックを机の上に置いて取組んだ。穴に合わせて分け入れることができたが、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 手指の操作性を高める</li> <li>② 集中して取組む</li> </ol> <p>をねらいとすると、スティックのみの方が効果的で、持ち方を工夫しながら16本集中して穴に挿入した。</p> <p>積み木については、5～6個を机上で積み上げることに取組んだ。円柱を立ててから指先で持つ等の工夫が見られた。積み上げができると、小箱に入れ蓋をして片付けるという活動も楽しみにしてできた。</p> <p>取組む前にどちらをするか写真カードで選択するようにした。</p>
保管場所 又は所有者	本校 小学部






教科・領域	自立活動
名称	ボタンの練習
写真 使用方法	 
対象児童生徒 学年・グループ	ボタン止め・外しに課題のある児童生徒
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"><li>• フェルト数枚（さかな、くるま等の形に切り、ボタンの大きさに合わせて切り込みを入れる）</li><li>• ボタン数個</li></ul>
使ってみて （効果・反省等）	ボタンの仕組みや、つまむ、押し込む、引っ張るという一連の手の動きを行うことができる。 繰り返し練習することでできるようにはなるが、実際に服を着る時のボタンの場所や角度とは違うためか、実際に服のボタンを付けられるようになるには少し時間がかかった。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



# 教材・教具 小

## 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	ゆらゆら椅子
写真 使用方法	 <p>児童が箱いすにまたがり左右に揺れる（上半身が傾く）ことで、反射的に上体の立ち直りを促すものである。児童が一人でも乗ることができる。児童と大人と一緒に乗ることもできる。</p> <p>写真上は下部の「三日月」部分が大きく、ストロークの長い揺れができる。写真下は「三日月」部分が小さく、ストロークの小さな細かい揺れができる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部児童
素材・作り方等	廃材を用い、ベルトサンダーで三日月の形に削る。 三日月型を2個作り、板に張り付ける。
使ってみて (効果・反省等)	小学部 AB 低グループの児童に使用する。一人では乗れない児童であったので、教員が後方に乗り二人乗りとし、左右に傾けるとそれに応じて上半身を真っすぐにしようとする、立ち直りがみられた。
保管場所 又は所有者	本校 小学部





## 教材・教具 小

## 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	コマ型回転盤
写真 使用方法	 <p>コマ型回転盤は、児童を乗せて回転させる遊具である。重心がとれて中心の棒で回転している時は振動をあまり感じられないが、重心がずれてキャスターが接地した場合に振動を感じられる。 回転の感覚や振動の際の感覚を体験させたい。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
素材・作り方等	25mm 厚の構造用合板を円形にカットし、中心に 30φの丸棒を着けコマの芯とする。周囲にキャスターを着ける。
使ってみて (効果・反省等)	小学部 AB 低のからだ（体育）の授業で使用する。 コマが中心で回る場合、振動が感じられないが、キャスターが接地して振動が生じると、乗っている児童に笑顔がみられた。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



# 教材・教具 小

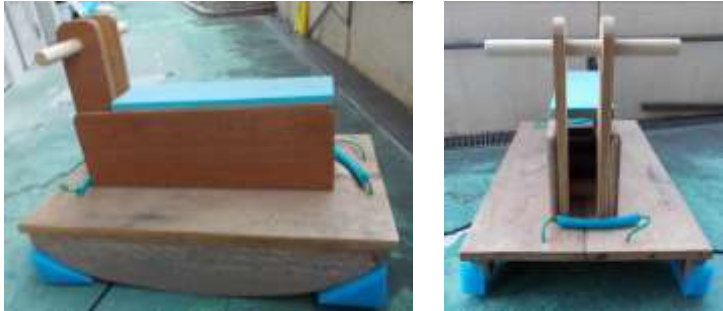
# 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	スヌーズレン教材 ①蛍光スライム ②蛍光絵具のペットボトル ③ウォーターボトル
写真 使用方法	<p>① </p> <p>② </p> <p>③ </p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ（1, 2 年生） 2 学期より、毎週月曜日の 5 時間目の集団自立活動の時間にスヌーズレンの授業を行っている。初めての空間に初めは戸惑っていた児童もいたが、慣れてくると自分が安心して過ごせる場所を見つけてリラックスして過ごせるようになってきた。
素材・作り方等	蛍光絵具、ぷるぷるボール、ラメ、ペットボトル等 インターネットからの情報を元に作成した
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蛍光絵具を使用した教材は、ブラックライトを当てると光ることもあり、じっと眺めて自分から手を伸ばして触れようとする児童もいた。</li> <li>・ ウォーターボトルに懐中電灯でライトを当てたり、キャンドルライトで照らしたりすると中が透けて綺麗に見え、興味を持って転がして遊ぶ児童の姿が見られた。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 小学部



## 教材・教具 小

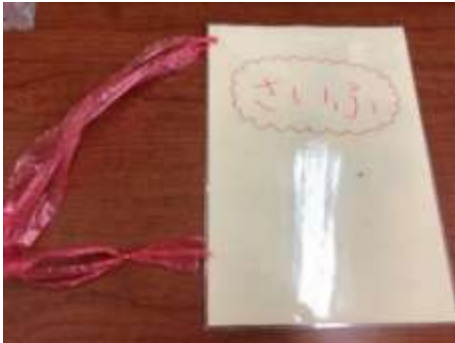

## 自立活動

教科・領域	自立活動
名称	木馬
写真 使用方法	 <p>木馬は児童がまたがり、自分で上半身を前後に揺すり揺れを感じる遊具である。この遊具に関しては、児童と大人が二人乗りできるように座面を前後に長くしてあるので、一人で乗れない児童には大人と一緒に乗って前後に揺らすことができる。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
素材・作り方等	廃材を用いて製作する。 ベルトサンダーで木材を削り三日月型を作る。大小それぞれ 2 個ずつ作り、小さい方 2 個を板の内側に張り付け固定する。その板の上に椅子となるものを製作し固定する。小さい三日月のままでは小さい揺れ、その外側に大きい三日月をボルトと蝶ナットで固定する。蝶ナットで固定することで、後にサイズの異なる三日月型を製作すると、取り外しと取り付けが容易にできる。
使ってみて (効果・反省等)	個別学習の時間に使用する。 一人で乗ることができる児童には、教員が見本を見せると一人で乗ることができた。一人乗りが難しい児童には、教員が後方に乗り揺らすと笑顔がみられた。
保管場所 又は所有者	本校 小学部



# 教材・教具 小


# 生活

教科・領域	生活（家庭科）	
名称	お金練習セット	
写真 使用方法	 <p style="text-align: center;">↓</p> 	<p>閉じると A4 サイズで、首から下げられるようにひもをつけている。広げると・・・</p> <p>お金がいくら入っているのかが分かりやすいようになっている。お金の裏には貼ったりはがしたりできる両面テープをつけているので何度も使うことができる。1000 円、100 円、10 円があります。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 C 高グループ	
素材・作り方等	<p>【さいふ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• A4 カラー用紙をラミネートにかけ、2 枚をテープで固定する。</li> </ul> <p>【お金】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ワープロソフトで作成したものをラミネートにかける。</li> <li>• 裏に何度も使用できる両面テープをつける。</li> </ul>	
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お金の色や形などをシンプルにしたため、見分けが付きやすい様子だった。</li> <li>• 両面テープを使用したため、子どもの力でも簡単に付け外しできた。</li> <li>• 見開きでお金が見えるため、いくら入っているのかが見えやすかった。</li> </ul>	
保管場所 又は所有者	本校 小学部	



## 教材・教具 ④

外国語/自立活動

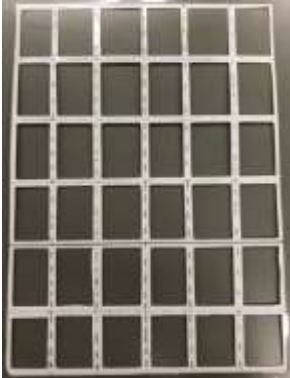
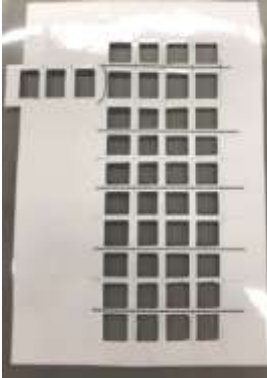
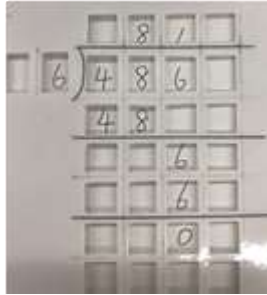

教科・領域	外国語/自立活動（みる・きく）
名称	一体型電子黒板（タッチディスプレイ）
写真 使用方法	 <p>電子黒板の主な機能は、画像や動画の表示、書き込み、保存の3つである。電子黒板のモニター上に映した画像や教材を拡大して大きく鮮明に表示したり、ペンツールや指によって自在に書き込みしたりができる。投影画面の切り替えや書き込みの消去もワンタッチででき、手書きした画面は画像データにキャプチャ保存し、いつでも呼び出したりすることもできる。また、デジタル教材も電子黒板に投写するだけなので、有効に活用できる。すばやい起動と移動可能（昇降式可搬スタンド）で教室外でも電源があれば使用できる。授業内容の情報がイメージとして伝わるため、児童生徒に理解しやすく、タッチディスプレイであれば、支援を要する場合もあるが、ほぼ児童生徒自身が自力で操作することが可能である。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部全員
素材・作り方等	ディスプレイ一体型 55 型電子黒板（昇降スタンド xSync Board）
使ってみて （効果・反省等）	<p>① 「外国語」（指導略案①）：デジタル教材「HI, friends!」や「DREAM」「English Jam」などを使用。デジタル教材はテキストの内容がそのまま入っていて、さらに動画や音声、教材も豊富なため、ネイティブな発音で状況を学習するという点で非常に有効であった。また、テキストにない資料を見せることも画面上で操作できるので生徒の集中途切れることが無かった。</p> <p>② 「外国語」（指導略案②）電子黒板は、次々と表示内容を切り替えることができることがメリットであるが、それは同時に前の表示内容が一瞬で消えるということでもあるため、長く生徒の目に触れさせたい大事なことは通常の板書の方が向いている。単語テスト（確認テスト）など、ある場面で数分間だけ使い、保存する方が大きな学習効果を発揮することもあった。</p> <p>③ 「自立活動（みる・きく）」（指導略案③）：タブレット端末やパソコンの動画を使用して、クイズゲームで活用。画面をタッチして自己選択した。自身が画面をタッチすることで動画が再生されることに気づき、解答まで注目することができた。</p> <p>今後は感染症対策などの観点も含め、個々のタブレットとのミラーリングなども取り入れて展開したい。</p>



教科・領域	自立活動（朝の会）
名称	名札カード
写真 使用方法	<p>① ② ③</p>
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 DE グループ
素材・作り方等	プラスチック段ボール、ラミネートフィルム
使ってみて (効果・反省等)	<p>はじめは①の一種類でしたが、子に応じて貼りやすくするために、少し振ることによく動き、くっつく面がホワイトボードにあたりやすくした②を作ったり、持つことが難しい子に対しては持つところを用意した③を作ったりと、改善を加えていきました。</p> <p>今はみんなが上記3種類を活用することで、出席のマッチングを行うことができます。</p> <p>生徒によって今後も改善します。</p>
保管場所 又は所有者	本校 中学部







<p>教科・領域</p>	<p>数学（掛け算・割り算の筆算）</p>
<p>名称</p>	<p>乗除法の筆算補助</p>
<p>写真 使用方法</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;">    </div> <p>マス目に合わせて掛け算、割り算を筆算で解き、位を意識してきれいな筆算が書けるようになるまで練習する。</p> <div style="text-align: right;">  </div>
<p>対象児童生徒 学年・グループ</p>	<p>中学部 FG グループ（2年生）</p>
<p>素材・作り方等</p>	<p>白紙プリントに筆算で数字を書くところに口を書き、ラミネートしてから口の部分を切り落とす。</p>
<p>使ってみて （効果・反省等）</p>	<p>斜視のため視覚的にまっすぐ書くことが難しい生徒で、筆算時に位を揃えることができず間違えていたが、きれいにかけることで、ミスが大きく減った。位を揃えて書く感覚が身に付き、きれいにそろえることで計算ミスが減るメリットを知ることができ、今は補助具がなく筆算を扱えるようになった。</p>
<p>保管場所 又は所有者</p>	<p>本校 中学部</p>





# 教材・教具 高



## 家庭

授業の名称等	「おせちポッチャ」
教科・領域・単元	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活分野「人と食物のかかわり」</li> <li>住生活分野「趣味や好きなことを増やそう」</li> </ul>
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な正月料理の内容や種類、意味について知る。</li> <li>様々な活動をみんなで共有体験・経験して選択の幅を広げ、趣味や好きなことを増やす。</li> </ul>
対象生徒	高等部 F グループ 3 人、高等部 G グループ 4 人
時間	4～5 時間程度
教材・材料	おせちの種類と意味に関するスライド（クイズ形式）、おせちが入った重箱の絵の的、ポッチャの球
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>おせちの種類と意味、起源に関する学習（クイズ形式）</li> <li>おせちの保存性についての学習</li> <li>おせちポッチャ大会</li> </ol>
ポイント等	<ul style="list-style-type: none"> <li>おせちはなぜ正月に食べて昔から親しまれている理由を考える。</li> <li>ゲーム性を持たせておせちに興味をもつようにする。</li> <li>生徒の理解度に合わせて、栗きんとん→「金運アップ」や伊達巻→「勉強運アップ」など馴染みのある言葉に言い換えてゲームを行う。</li> <li>生徒の自主性を重視し、点数配分や点数計算はできる範囲で生徒たちが協力して行うようにする。</li> </ul>
教材を使用した感想や生徒の反応等	<ul style="list-style-type: none"> <li>おせちの種類と意味に関して、クイズやポッチャのゲーム性を活かして学習することにより生徒の反応がよく興味喚起をしやすいかった。</li> <li>今回は下左図のような大きな一段の重箱の絵の的を使用した。応用編として、下右図のように独立したおせちの的を使用して、「一の重」「二の重」といった、おせちの配置に関する学習をすることもできる。画用紙と組み合わせることでの的を大きくすることもできる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>




# 教材・教具 高


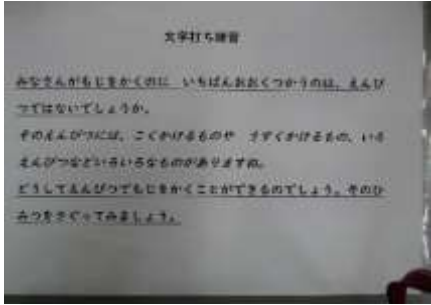
## 家庭

授業の名称等	「バスボムを作って足浴しよう」
教科・領域・単元	住生活分野「趣味や好きなことを増やそう」
単元のねらい	様々な活動をみんなで共有体験・経験して選択の幅を広げ、趣味や好きなことを増やす。
対象生徒	高等部 F グループ 3 人、高等部 G グループ 4 人
時間	3～4 時間程度
教材・材料	足浴用バスボム材料…重曹 10g、クエン酸 5g、片栗粉 5g、アロマオイル 1 滴（スイートオレンジ、ペパーミント、ラベンダー、ひのきなど）、粉を混ぜるためのビニール袋（冷凍保存用袋などでも可）、水の入ったスプレー、電子スケール、足浴用バケツ
内容	身近な素材（口に入っても大丈夫）を使用してバスボムを作成し、足浴を行う。
ポイント等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近で簡単に手に入る物でバスボムを作成できることを伝える。</li> <li>・ 数種類のアロマオイルの中から好きな香りをみつける。</li> <li>・ 足浴の効果を伝え、健康を意識させる。</li> </ul>
作り方	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 粉をはかって袋に入れて混ぜる。（多少の前後は OK）</li> <li>②好きな香りを決めて、粉に混ぜる。</li> <li>③ 粉の入った袋にスプレーで少しずつ水を吹きかける。（水の量が多いとクエン酸が溶け出して泡が出るので注意）</li> <li>④ 袋の外から握って固まれば OK。</li> <li>⑤ 1 日程度乾燥させる。</li> </ol> <p>補足：今回は色付けをしなかったが、下写真のように微量の食紅（赤・黄・青など）や食品（抹茶やココアなど）で行う場合は色を付けることができる。また、シリコンの型やガチャガチャのカプセル等に入れて形を整えることもできる。粉の中にプラスチック製の小さな玩具を入れるとゲーム性も出て興味喚起しやすい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
教材を使用した感想や生徒の反応等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回は知的に軽度のグループで使用したが、足浴をしたことがない生徒も多数いて、楽しんで作成していた。足浴当日は、好きな音楽・映像をテレビで映しながら実施し、リラックス効果も増したと思われる。</li> <li>・ 万が一口に入ったとしても大丈夫な素材を使用しているため、重度グループでも使用しやすいと思われる。</li> </ul>



教科・領域	自立活動
名称	視線入力装置
写真 使用方法	 <p>動作環境に対応したノートパソコンに視線入力機器トビーを接続する。ノートパソコンをそのまま使用したり、モニターを介して大きな画面に映しだしたりして使用することができる。アプリを利用し、様々なゲームを体験することができる。今回は次々と現れる風船や飛行機に視線を向けると撃墜できるゲームを行い、一定時間内の撃墜数を増やして楽しんだ。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	追視が可能だが、自力での手指の操作が難しい。
素材・作り方等	視線入力訓練ソフト EyeMoT 3D
使ってみて (効果・反省等)	視線入力訓練ソフト EyeMoT 3D の風船割ゲームに取り組んだ。パソコンを見せると、画面に注目してうれしそうに声を出し、パソコンに対して興味関心が高いことがわかった。風船が画面に映し出されると、風船を見つめ、割ることができた。だんだん視線で風船が割れるという因果関係を理解し、画面をよく見て取り組むことができた。「赤い風船」「緑の風船」などの言葉かけで色にも注目していた。途中で教員の方に「見て見て」とほめてもらいたそうに声を出し、コミュニケーションをとることも楽しんでいた。「成功体験」を積むことができ、ほめられ、満足そうな表情であった。今後は生徒の実態に応じた課題を作成し、実践していくことも考えられる。
保管場所 又は所有者	本校 高等部





教科・領域	自立活動、情報
名称	ひらがなタイピング
写真 使用方法	 
対象児童生徒 学年・グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名を読むことができる児童生徒が対象。</li> <li>今年度は高等部 F グループの生徒で実施。</li> </ul>
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末のワープロアプリを使用しての平仮名打ち。</li> <li>平仮名打ち用の例題は絵本の一部を抜粋して 130 文字程度で完結するように作成。</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際にやってみると最初は打ち間違いも多く、句読点や拗音といったことの変換方法など使用方法もわかっていなかった。また、10 分間集中してタイピングする力もなかった。</li> <li>週に 2 回の授業始まりのタイピングで徐々に集中力が増し、自分の間違いに気づいて打ち直しなどタイピング技術の向上が見られた。ほぼ間違えずにタイピングができるようになると次によりたくさんの文字が打てるようになりたいと意欲を持つ生徒も出てきた。</li> <li>2 学期の終盤まで週 2 回のタイピング作業を取り入れていたが、少し飽きも出てきた様子が見られ週 1 回のタイピングに変更した。</li> <li>週 1 回のタイピングにしたことで同じ間違いを繰り返してしまう、集中力の低下がみられタイピング技術の向上が少し止まった。やはり毎回同じ作業を日課のように取り入れることが上達につながったように思う。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 高等部情報科




## 教材・教具 高

職業・その他

教科・領域	自立活動、職業、数学等
名称	自動販売機の段ボール工作キット ((株) ダイードリンクコ提供)
写真 使用方法	 
対象児童生徒 学年・グループ	高等部F・Gグループ (教科横断的な活用)
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>素材 段ボール、厚紙、輪ゴム、シール</li> <li>作り方 図解による作業手順書が添付されている。ハサミ、のり等は使用せず、山折り、谷折り、はめ込み等で作ることができる。</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>この自動販売機工作キット教材は、(株)ダイードリンクコから寄贈品として提供された。生徒に提示したルールは、「手順書を見てひとりで作ること、分からないときは聞くこと、手伝ってほしいときは丁寧な言葉で依頼すること」の3つで、添付されていた作業手順書が図解で分かりやすく、Gグループの生徒は、ほぼ一人で作業することができた。出来上がった自動販売機の模型は完成度が高く、生徒の意欲が高まっている様子であり、生徒の実態に合っている教材であった。完成品は、Fグループの数学で、買い物学習に利用した。</li> <li>今回は「職業」「自立活動」で製作し、「数学」では買い物学習の教材として活用するなど教科横断的な取り組みができた。生徒人数分確保できるのであれば「美術」でのデザインの授業などにも横断的に取り組みたい。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	見本は、本校 高等部保管

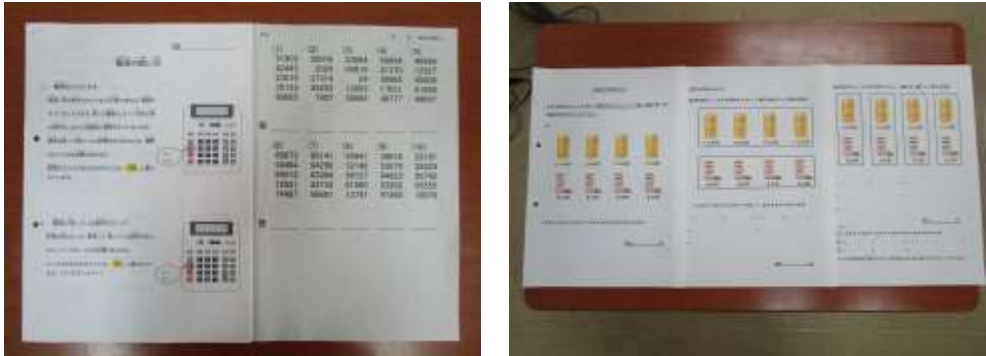





教科・領域	数学
名称	色の弁別 重さの計測
写真 使用方法	 <p>10分間でビーズを分け、毎回重さを測り記録する。 手指または、ピンセットを使用する。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部Fグループ
素材・作り方等	アイロンビーズ ゴム付きコイントレー ピンセット
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 3人の弁別の合計が9g(11月)から11g(2月)まで分けられるようになった。継続し行うことで作業に取り組む集中力、手指の機能性が高まったように思う。</li><li>• ゴムなしのトレー、ゴム付きのトレーやピンセットの使用など生徒が作業しやすいようにする。</li><li>• 弁別を行った後は、車いすや教室にビーズが落ちていないか必ず確認する。</li></ul>
保管場所 又は所有者	本校 高等部









教科・領域	数学
名称	電卓計算プリント・四則混合計算プリント
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 G1 グループ (概ね、小学 2~4 年生段階の学習グループ)
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 乱数生成ツールを利用して、表計算ソフトで作成する。</li><li>・ ワードプロソフトを使って、資料を作成する。</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ol style="list-style-type: none"><li>① 乱数生成ツールを利用して、表計算ソフトで作成する。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 毎回、違った問題が作成できる。</li><li>・ 見えやすく書きやすいように、フォントサイズや字体、解答欄に配慮したので、計算しやすいプリントが作成できた。</li><li>・ 「5桁までの数字を5回足す」という問題は、5回足すと回答できるので、量としては適当だった。</li></ul></li><li>② ワードプロソフトを使って、資料作成を作成する。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 視覚的にもわかりやすくなるように工夫できた。</li></ul></li></ol>
保管場所 又は所有者	本校 高等部数学科


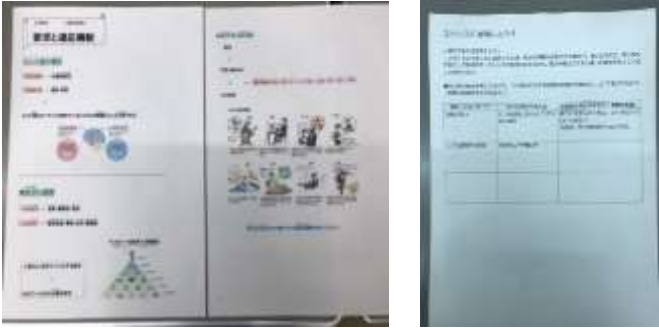


教科・領域	数学
名称	神経衰弱
写真 使用方法	 <ul style="list-style-type: none"><li>アナログ時計またはデジタル時計の片方だけを裏返し、もう片方は表向きに置く。裏返した方から選び、選んだ時刻と表向きの時刻が一致するようにカードを選ぶ。</li></ul>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部Fグループ (時計の読みを学習している生徒)
素材・作り方等	ワープロソフトで時刻を作成し、画用紙に貼りラミネートをする。
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>ゲーム感覚で楽しみながら学習ができた。</li><li>繰り返し行うことで、アナログとデジタルの同時刻を一致させることができた。</li><li>生徒の能力に合わせてルールを工夫し取組んでいきたい。</li></ul>
保管場所 又は所有者	本校 高等部数学科




教科・領域	美術
名称	さまざまな感触の教材
写真 使用方法	<p>視覚障がいや接触過敏の生徒たちとの授業を通して素材の感触を大切にしながら授業を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>左写真は、シェービングクリームと水のりを混ぜた、クリーム状の絵の具を用いて制作した。このクリーム状の絵の具は感触見た目ともにホイップクリームに似ていて素材に触れた生徒たちは笑顔になってすぐに受け入れることができていた。この絵の具を使ってマーブルングやアイスクリームの描画に取組んだ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <p>左写真は、絵の具を画用紙に垂らし、磁石で画用紙を挟み動かしながら磁石の軌跡を活かした描画制作。生徒たちは、磁石の軌跡を不思議そうに見て触り興味津々だった。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <p>左写真は、保冷剤に魚のゴム人形や装飾品を入れて水族館を作ったもの。冷凍するとひんやり固くなり、だんだん溶けていく感触が味わうことができ、冷たいものが苦手でも柔らかくなると手を出す様子を見ることができた。</p> </div>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 DE グループ
素材・作り方等	上記参照
使ってみて (効果・反省等)	<p>身近にある素材を一工夫するだけで生徒たちにとって魅力的なものになり、視野を広げるきっかけになったように感じる。また、ただ見せるだけではなく、説明の仕方、口調などでも生徒たちは期待感を持って話を聞くことができるようになってきていると感じた。</p> <p>四月当初は手を引っ込めていた生徒が力を抜いて素材に触ることができるようになった姿をみて素材に触れる大切さを改めて感じている。反省点として、触っているうちに口に入れてしまったことがあったので、異食のある生徒への配慮を徹底するべきであった。今後は安全面への配慮を徹底しながら新たな素材を用いて授業を組み立ていきたい。</p>
保管場所 又は所有者	本校 美術科



教科・領域	保健体育
名称	性教育「人とのかかわり」①、②
写真 使用方法	<p>① </p> <p>② </p> <p>・指導案①②は、別紙参照</p>
対象児童生徒 学年・グループ	<p>① 高等部 FG グループ</p> <p>② 高等部 G グループ</p>
素材・作り方等	<p>① アンケート用紙をワープロソフトで作成する。 人権委員会より参考資料をスキャナーアプリに取り入れる。</p> <p>② アンケート用紙をワープロソフトで作成する。 プレゼンテーションアプリを使用して「欲求と適応機制」の資料を作成する。授業を受けてまとめプリント（発想の転換）を作成する。</p>
使ってみて (効果・反省等)	<p>①②アンケート（プライバシーの配慮を行いながら）で生徒の考え方を客観的に考えることができるように促すことができた。アンケート内容を受けて、身近な人や将来想定される環境をイメージしてもらい、様々な事象を資料よりプレゼンテーションアプリやスキャナーアプリを使用して見やすい絵や情報を例題にあげた。（視覚情報を多くした）</p> <p>①想像してなかった出来事がたくさんあった様子であったが、各事象に対して真剣に考え、それぞれが、自分の考えや意見を発表することができた。被害者になった場合としての内容が大半だったので、加害者になるかもしれない可能性もあることも同時に伝えておくべきであった。次回の授業でフォローしたいと考える。</p>
保管場所 又は所有者	本校 高等部



教科・領域	外国語（英語）
名称	プレゼンテーションソフトによる英語教材
写真 使用方法	 <p>授業の流れを作り、その時間新しく学習するところや強化するところの導入がスムーズにいくように、身近な題材を使用するようにしている。アニメーション機能を使用し、イラストと英単語が順番に表示されるようにしている。まずは生徒たちに予想させてから英単語を表示するようにしている。単語を確認しながら一緒に発音練習し、その後と同じような問題を行うことで定着と強化をはかっている。画面だけでなく、ミニホワイトボードに解答を書くことや、絵カードを選ぶ形で学習することも並行し行っている。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 FG グループ
素材・作り方等	プレゼンテーションソフト。生徒たちに馴染みのあるアニメや生徒の好きな人物や事物を題材の一部として取り入れていること、アニメーションを多く使用して少しずつ題材を表示し注視できるようにし、クイズ形式で答え合わせができるようにしている。単調にならないように、また気分の切り替えを行うために英語の歌やダンスの動画を取り入れている。英語の読みが難しいので、基本的に英単語にふりがなをつけているが、定着したところや容易に読めそうなところは必要に応じてつけていない。
使ってみて (効果・反省等)	アニメや好きな芸能人などの画像が教材の一部になっていると、興味関心が向きやすく導入としてはよいものであった。アニメーション機能を駆使することで次の表示を想像することや期待感ももてる他、動きや音も加わり、生徒の関心を引き続けることができていた。クイズ形式で答え合わせのように用いることや生徒同士が競争するように解答する場面を設定しているので、それぞれ意気込んで取り組んでいる姿が印象的であった。
保管場所 又は所有者	本校 高等部


# 活動實踐事例





## 活動実践事例 ①

## 交流・ 共同学習

教科・領域	特別活動（交流及び共同学習）
名称	直接交流が難しい時期の交流学習の実施について
写真 使用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学部は、10月に大阪市立中津小学校と、1月に大阪市立豊崎小学校（1月）と交流学習を行っている。</li> <li>● 今年度は、感染症等への対策として来校による児童館の直接交流は行わず、学校紹介や学習や休み時間の様子を撮影した動画（ビデオレター）とボッチャ、カローリング、夏のつどいで児童が計画した遊びの物品を届けた。</li> <li>● 相手校からも、返信のビデオレターや育てたお花の苗が届いた。</li> </ul> 
対象児童生徒 学年・グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中津小学校との交流： 全学年</li> <li>● 豊崎小学校との交流： 小学部1～3年生</li> </ul>
素材・作り方等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タブレット端末を活用。学習グループによっては、児童たちで動画を撮影する場所や内容を事前に考え、撮影も自分たちで行っていた。</li> <li>● 貸出する物品を使った動画も撮影し、パラスポーツの紹介も行うことができた。</li> </ul>
使ってみて （効果・反省等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前年度までもインフルエンザ等の流行による交流中止や延期があったが、今年度のような交流の形を案の一つとして準備しておくことで交流学習を中止せずに実施することができる。</li> <li>● 相手校の学校や授業の様子を動画で見ることができ、同じところや違いに気づくことができ、本校にとっても交流学習の幅が広がった。</li> <li>● 今年の経験を発展させ、共同学習等へICTを活用しながら更に深めていくことができる機会となった。</li> </ul>
保管場所 又は所有者	本校 教材室、多目的ホール倉庫、本校HP（ブログ参照）



教科・領域	自立活動
名称	発達を理解した食べる支援
使用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● 噛む動きが育っているかの観察項目<ul style="list-style-type: none"><li>① 左右の口角は非対称に動いているか</li><li>② 噛んでいる顎のほうに、唇が引っ張られているか</li><li>③ 舌は横に動いているかどうか</li></ul></li><li>● 唇を閉じる力が弱い 唇を閉じて食べ物を取り込んだり飲み込んだりする機能は「離乳初期」に獲得されるが、色々な原因でいつまでもこの力が弱いときには、「唇を閉じる介助」をしたり、「口輪筋のマッサージ」をして、閉じる力をつけていく。</li><li>● むせる状態 飲み込むときには、「呼吸」と「嚥下」の動きが動きが上手く協調しないといけない。つまり、飲み込む瞬間には呼吸が止まっていて、飲み込んだ後にもまた呼吸が始まります。このタイミングがうまくいかないと、息を吸うと同時に食べ物も吸い込んでしまったりするので、むせがおきてしまう。鼻から息ができずに口からばかり息をしている子では、このタイミングのずれが起きやすくなります。鼻の病気でつまったりしていないようであれば、口を閉じて鼻で息をする練習を試してみる。</li><li>● 姿勢 きちんとした姿勢をとることは、食事にとってとても大切である。噛んだり飲み込んだりするために使う筋肉をリラックスさせるような姿勢を作ってあげる。あまり体や頭を倒しすぎると、重力のままにのどのほうに食べ物が落ちていってしまい、かえって食べにくくなります。体の状態に合わせて少しずつ起こしていき、上手にたべられるようにしてあげて、徐々にまっすぐに座って食べることを目指していきます。食べるためには、口のまわりや首のなどの筋肉だけでなく、全身がリラックスしていることが必要。関節を適度に曲げるように、全体としてやや丸くなるような姿勢をとると、不必要な緊張をしにくくなる。</li></ul>
対象児童生徒	小学部 3 年生
(効果・反省等)	1 学期の喫食後、担当児童の ST の見学を行い、実態に合わせた食べさせ方等の話し合いを重ね、研修と置き換えた。



## 活動実践事例 小

## 自立活動

- 対象児童： 小学部 4 年生 男子
- 主たる病名等： 脳性まひ
- 障がいの型・部位： 痙直型・四肢麻痺

- 取組み内容：

日頃は児童椅子で学習している。移動手段は座位保持椅子であるが、ウォーカーや介助歩行も好んで取組んでいる。何事にも興味を持ち、やる気がある児童である。

スパイダーでは、児童はジャンプをすることを目標に取組んでいる。そのため、スパイダーの時のみ大阪整肢学院よりハイカット型のシューズを借りている。また、学校としては下肢（膝）をうまく使うこと、下肢の筋力向上を目標に取組んでいる。

まず初めに、箱いすやバルーンを使用して、膝をしっかり曲げてからの立ち上がりを取組んでいる。【写真1・2】足底がずれ、膝が外に開きながら屈曲することがあるため【写真2】児童に意識させるための言葉かけ、また後ろからの介助をしている。

その後、ジャンプに取組んでいる。【写真3】

- 取組み成果：

スパイダーでは立ち上がりを中心に取組んでいる。まだ、膝を曲げてからのジャンプをすることは難しいが少しずつ身体の使い方を意識できるようになってきた。立ち上がりの際も身体が後ろになるようにしていたのが、前方に向かって立ち上がることも意識できつつある。まだ定着まではいかないが児童が意識することはできてきた。

また、スパイダー後の介助歩行では、児童より「歩きやすくなった」と言っていた。

訓練士とも相談し、見学してもらった時には、太もも裏のストレッチには効果があると言われた。太もも裏が硬いため柔軟性を高める動きとして効果があると言われた。



【写真1】



【写真2】



【写真3】



## 活動実践事例 ④

## 自立活動

- 対象生徒： 中学部 1 年生 男子
  - 主たる病名等： 染色体異常
  - 障がいの型・部位： 四肢弛緩性麻痺
  - 個別の指導計画目標： 日常生活に必要な姿勢と運動・動作の基本的技能を習得する。
- 
- 日頃の取組み： 覚醒と緊張の低いことが多い【写真 3】 ので、身体をさすったりタッピングしたりするなどして覚醒を促すことがある。椅子での座位や立位台にてヘッドコントロールや興味があるものに触れる手指動作、目と手の協応などに取組んでいる。また、普段行うことが困難な姿勢や動作を経験させることもある。
  - 成果： スパイダーにて、椅子での座位を安定させ【写真 1】、合同自活（OT）での取組みを参考にし、玉そろばんを手や腕を動かして転がしたり、バチを握ってタンバリンをたたいたりしている。【写真 2】 最近では、キーボードのデモ演奏を流すと追視することがある。姿勢に関しては四つ這い位を経験し、免荷された上体を 5 秒程度上肢で支えながらヘッドコントロールすることができた。【写真 4】 【写真 5】



【写真 1】 ↑



【写真 2】 ↑



【写真 3】 ↑



【写真 4】 ↑



【写真 5】 ↑



- 今後の展望・課題： 免荷率を下げた状態での四つ這い位、または、膝立ちなども経験できる可能性があるのではと考える。





## 活動実践事例 高



## 自立活動

教科・領域	自立活動（高等部）
名称	スパイダー（重力免荷装置）
写真 使用方法	  <p>導入時： 10月2日                      指導 4 回目： 12月 4日</p> <p>スパイダーは、びわこ学園の高塩純一氏が日本に導入した。1G の重力下では経験できない身体の動きを子どもたちが楽しく経験し、自らの力で動きたい、遊びたいという心と、運動学習を可能とする訓練機器である。写真のように、ゴムを使って体重を重力から免荷する。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部 FG グループ 2 年生
素材・作り方等	重力免荷装置（スパイダー）
使ってみて （効果・反省等）	<p>本生徒は、脚長差があり右靴型装具の底に約 8cm の補高があるが、本生徒なりの運動機能を獲得し、体を動かすことを楽しむことができている。今回、重力を免荷することにより、重力下ではできないジャンプができた。重力が免荷され普段より筋力を大きく使えることに、本生徒の場合開放感を味わい、教員の提示するさまざまな活動を積極的に受け入れ、自分で実行しようとする態度が見られた。</p> <p>反復横とびのように、下肢を外転させ側方に踏み出す運動は、日常生活の中で本生徒が行う場面を見たことがなかった。スパイダーの中で、フラフープを 3 つ床に並べると、教員の動きを見て、自分の手足の運動にフィードバックして運動企画、実行することができた。</p> <p>高塩純一氏は、スパイダーを活用する際、プレイフルな活動をさせたいと言っている。また四天王寺やわらぎ苑理学療法士の榎勢道彦氏は私たちにスパイダーのさまざまな使い方を提案している。単なる免荷装置として活用するだけでなく、子どもの動きを引き出すための機器として教育的効果を狙って活用していきたい。</p>
保管場所 又は所有者	本校 2階ホール



## 活動実践事例 高

## 自立活動



教科・領域	自立活動（高等部）
名称	スパイダー（重力免荷装置）
写真 使用方法	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>導入時： 10月2日</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>第4回目： 12月4日</p> </div> </div> <p>本生徒の使用にあたっては、下肢の感覚に障害があるため、衝撃を和らげるため、エアレックスマットを下に敷く。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部Fグループ 1年生
素材・作り方等	重力免荷装置（スパイダー）
使ってみて （効果・反省等）	<p>下肢の感覚障がいがある。学院では独歩であるが学校では車いすを利用し、独歩することはほぼない。スパイダーの利用の前段階として、合同自立活動で理学療法士に本生徒がスパイダーを使う上での留意点を聞いた。理学療法士から、かかとに傷を作ると悪化して歩行できなくなることがあると聞き、初回時はゴムベルトの位置を4番にし、免荷率を上げて取組んだ。足底接地した状態でゴムベルトを着けたが、下肢伸展状態で膝を反張し、足底を宙に浮かしてしまった。2回目の指導時に合同自立活動を利用し、理学療法士から足底への衝撃を減らすためにエアレックスマットを床に敷くようにと助言いただいた。その後、ゴムベルトの位置を7番まで下げかかとへの荷重をおこなった。本児の場合、歩行時も踵足となり、足底のあおりがほぼない。裸足で前足部を使う感覚を覚えてもらいたいと思い、つま先立ちができるように高めにゴムベルトを設定していた。しかし目標とする運動を導き出すことはできなかった。そこで、まずはさまざまな運動を経験することから始めようと、足を左右に動かしやすいように環境を視覚支援し、床にフラフープを置いた。すると左右のフラフープに足を動かそうとする動きがみられた。また、ファシリテーションボール（ボールの空気をわざと抜いて、手指を使い持ちやすくした）を使ってキャッチボールを楽しみ、遊びの中で重心移動を行いながら、自分の運動をコントロールする経験をした。体性感覚の中枢である脳の前庭核を刺激し、ミラーニューロンを活発にすれば、心の理論の発達につながるとも言われている。続けて指導することでどのような精神的な発達が見られるか評価していきたい。</p>
保管場所 又は所有者	本校 2F ホール





## 活動実践事例 高

## 自立活動

教科・領域	自立活動（高等部）
名称	スパイダー（重力免荷装置）
写真 使用方法	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">導入時： 10月2日                      第4回目： 12月4日</p> <p>体幹が不安定な場合は、腰ベルトを2本装着することもあるが、本生徒の場合第4回目の写真のように学習を積むと体幹が安定した。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	高等部Fグループ 2年生
素材・作り方等	重力免荷装置（スパイダー）
使ってみて （効果・反省等）	<p>本生徒は痙直型アテトーゼ脳性麻痺の運動障がいを持つ。アテトーゼ型の場合、身体への予測不能な運動や突然の音に対して、原始反射や異常筋緊張を誘発するため、障がい像を理解しスパイダーの活用をすることが重要になる。よって、合同自立活動やケースカンファレンスなどを通じて学院の担当理学療法士や学院長の意見を伺ったうえで実施した。導入時、スパイダーの中でどのような運動が自分の身体に起こるのか予測不能で、重心を身体を中心に集めて安定を図ろうとする様子が写真からみられる。足底接地および、膝関節はロックされたように動きが少なかった。2回目の指導時には、指導者と手をつないでバランスを取り、ジャンプや下肢の左右への外転運動も実行できた。</p> <p>2回目の指導と合同自立活動の日程を合わせ、理学療法士から助言をいただくことができた。その際、本生徒については、左股関節周辺の痙縮が見られ、学院では外転の動きが乏しくなっていたところ、スパイダーにより免荷されることにより、右股関節の外転を自発的に行うことができていたと指摘された。本児のスパイダーによる指導の効果を確認することができた。</p> <p>4回目の指導時には、重心移動を伴うボール投げを立位で行うことが可能になった。立位になり、友だちと同じ目線でキャッチボールができる経験は本生徒にとって、心理的な成長をもたらすものと思われる。</p>
保管場所 又は所有者	本校 2F ホール



教科・領域	国語・特別活動
名称	読書推進活動（朝読書、読書感想文コンクール、感想画コンテスト）
写真 使用方法	<p>①読書手帳 読んだ本の題名と簡単な感想を記入し、シールを貼って読んだ本の数を視覚的に把握できるよう取組んだ。</p> <p>②読書感想文コンクール 本コンクールに参加。生徒の読書への意欲を向上させるよう取組んだ。</p> <p>③読書感想画コンクール 入賞作品のカレンダー カレンダーを図書ホールに掲示し、作品への投票を行うことでコンクールへの関心と読書感想画へ興味を高める取組みを進めた。</p>    
対象児童生徒 学年・グループ	<p>①②高等部 FG グループ（生徒 7 名）</p> <p>③全校児童生徒および教職員へも参加を呼び掛けた</p>
取組み内容	<p>① 読書手帳の活用</p> <p>② 読書感想文コンクールへの応募</p> <p>③ 読書感想画カレンダーへの投票</p>
使ってみて （効果・反省等）	<p>① 朝の読書タイムを設定することによって、読書が苦手な生徒も読む機会をもつことができた。読んだ本の題名と簡単な感想を記入し、シールを貼って読んだ本の数を視覚的に把握することができるため、何枚貼ったかを報告して、達成感を感じることもできた。</p> <p>② コンクールへの応募を目標に、何度もスモールステップで練習し推敲を重ねることによって、感想文を完成させた。作品が実際に入選し賞状をもらうことができたことで、喜びと自信につながった。本コンクールに参加した、他校の教員からも、参加生徒の励みになったという声を聞いた。</p> <p>③ カレンダーを掲示し投票することで、読書感想画という表現がある事への関心が高まった。今回の活動で投票に参加した、児童生徒会役員のメンバーからは、生徒会活動で図書室の整理やホールの清掃を行いたいと積極的な図書館活動への意欲の向上が見られた。</p>
活動場所	本校 図書ホール



# 研修資料等



# 校内研修資料： 人権委員会

大阪府立中津支庁学校 人権教育研修

## 同和問題に関する校内研修

— 同和問題とは何か

— なぜ今、同和教育が必要とされているのか

37ページ (所要時間25分)

2

本日のプログラム

同和問題とは何か P3～4

歴史的経緯 P5～12

現状と実態 P13～24

教育に期待されること P25～29

実践に向けて P30～36

3

同和問題とは何か

同和問題とは何か P3～4

歴史的経緯 P5～12

現状と実態 P13～24

教育に期待されること P25～29

実践に向けて P30～36

4

同和問題\*とは何か

就職、結婚などを含む日常生活の上で**差別**を受ける

社会的、経済的、文化的に**低位の状態**を強いられる

日本固有の**人権侵害問題**

\*差別和問題＝差別問題、即ち差別とも

## 歴史的経緯

5

同和問題  
とは何か  
P3~4

歴史的経緯  
P5~12

現状と実態  
P13~24

教育に期待されること  
P25~29

実践に向けて  
P30~36

## 歴史的経緯

6

### 同和問題における歴史的経緯

- 江戸時代 - 身分制の確立
- 明治 4年 - 太政官布告 (解放令)
- 大正11年 - 全国水平社 設立
- 昭和40年 - 同和对策審議会 答申
- 昭和45年 - 同和对策事業特別措置法(以下、同対法)の制定
- 平成14年 - 同対法の失効

## 歴史的経緯

7

### 身分制の確立

封建的身分制度<sup>※</sup>により生じた被差別階層

⇨ 職多(えた)・非人(ひにん)

部落出身者への差別が同和問題の起源とされる

### 太政官布告(解放令)

封建的身分制度を廃止  
制度・法律上での被差別者の身分の解放

実際は、

⇨ 無くならない差別、強いられる経済的格差

※封建的身分制度=上下関係を重んじて個人の自主・権利を軽んずるような社会上的身分制度。



## 歴史的経緯

9

### 全国水平社 設立

部落出身者への差別解消を目的に結成

後の部落解放運動団体<sup>\*</sup>の前身となる



○※ “部落解放同盟” “部落解放全国委員会” など

## 歴史的経緯

10

### 同和対策審議会 答申

国が同和問題の存在を認める

同和対策事業を開始



## 歴史的経緯

11

### 同和法の制定

期限付きで交付

同和対策事業の財源確保

その後、...

何度かの改正と延長を経て、失効



○※ 同和法 (= 同和対策事業特別措置法) は、地方公共団体へ“同和対策”を命じ、その事業の資金の一部を負担する。

## 歴史的経緯

12

### 同和法 失効

財政基盤が消失 ⇨ 同和対策事業の終了

『人権教育のための国連10年』  
同和から人権へ、教育の転換



○※ 第二次大戦への反省による、人権を平和の基盤と位置づけた国際社会で共有すべき人権の基幹的権利への取り組み。



## 現状と実態

13



## 現状と実態

14

### 『一般国民に対する意識調査 結果(2020)』

#### 同和問題に関する

認知・理解

差別意識

教育への認識

見聞きした媒体

## 現状と実態

15

### 同和問題の認知・理解

#### 同和問題を知っている人の割合

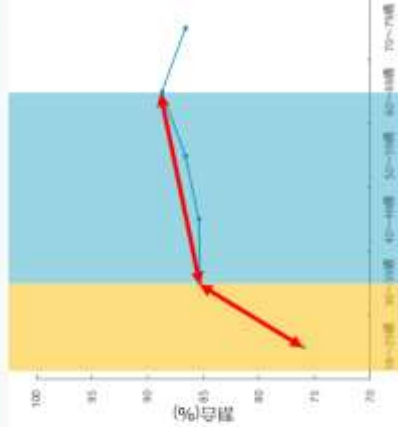
全世代で75%以上が認知

#### 同対法 制定後の世代

緩やかな減少傾向あり

#### 人権へ転換後の世代

教育の転換で同和問題の認知率が低下



## 現状と実態

16

### 同和問題の差別意識

#### 旧同和地区出身を気にする人の割合

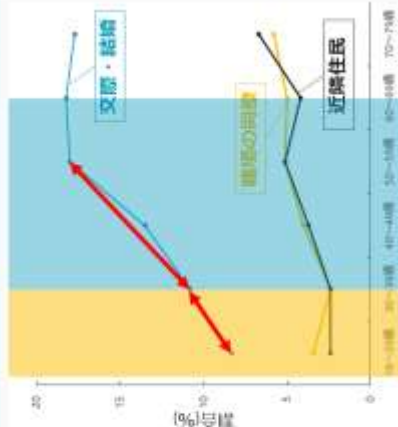
交際・結婚に対して顕著に表出

#### 同対法 制定後の世代

50代から30代へ減少傾向

#### 人権へ転換後の世代でも減少

人権教育が効果的に機能



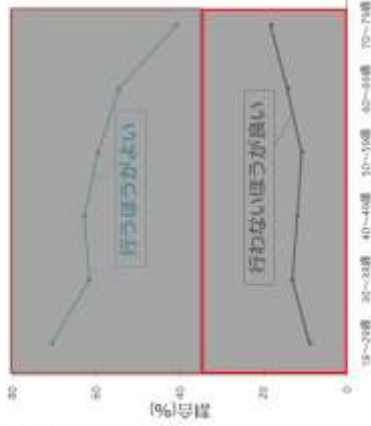
## 現状と実態

17

### 同和問題の 教育への認識

**教育・啓発に関する認識調査**  
全体の過半数が実施すべきと回答

行わないほうが効果的“蒙た子を起こすな”  
“自然に無くなるのを待つ” 19.2%



【右図】法務省 人権問題局「部落差別の実態に係る調査結果報告書」参照

## 現状と実態

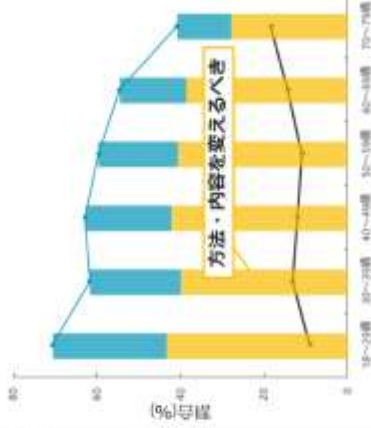
18

### 同和問題の 教育への認識

**教育・啓発に関する認識調査**  
全体の過半数が実施すべきと回答

行わないほうが効果的“蒙た子を起こすな”  
“自然に無くなるのを待つ” 19.2%

これまでの同和教育に否定的な意見  
過半数が**方法・内容を変えるべき**と回答



【右図】法務省 人権問題局「部落差別の実態に係る調査結果報告書」参照

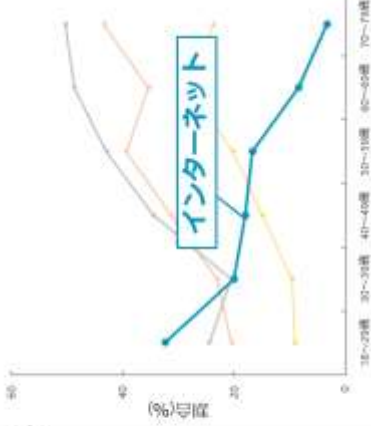
## 現状と実態

19

### 同和問題の 見聞した媒体

**同和問題に関する啓発について**  
60~70代を頂点とした山形

**インターネットの台頭**  
20代で最も割合の高い媒体



【右図】法務省 人権問題局「部落差別の実態に係る調査結果報告書」参照

## 現状と実態

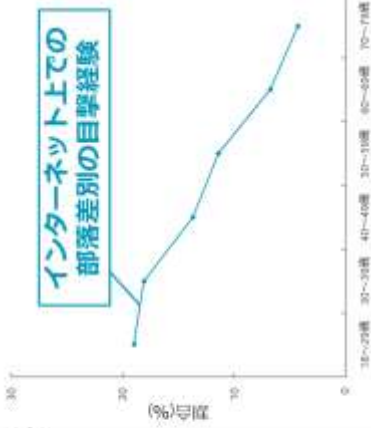
20

### 同和問題の 見聞した媒体

**同和問題に関する啓発について**  
60~70代を頂点とした山形

**インターネットの台頭**  
20代で最も割合の高い媒体

**差別の場がインターネットへ拡大**  
同和問題の実態に変化



【右図】法務省 人権問題局「部落差別の実態に係る調査結果報告書」参照

## 同和問題に関する人権侵害事例

### インターネット上での差別



『**部落地名総監**』の出版(未遂)とネット掲載  
非公開の実態調査報告書と同種の内容  
出版・ネット掲載を禁止とする仮処分決定\*

その他にも  
地図アプリの改竄、SNS等での差別を助長する書き込み等...

○※2016年に部落差別問題より関係。2021年2月18日に結審。5月以降に判決が出る見込み。

## 同和問題に関する人権侵害事例

### 結婚・就職等における差別



### 戸籍・住民票の不正取得

身元調査を目的とした個人情報<sup>※</sup>の不正取得  
各自自治体の「**本人通知制度**」による不正利用の防止

公正な採用選考のための**統一応募用紙**  
不正な評価につながる項目を削除し、記入項目を統一した選考用紙

○※第三者が戸籍・住民票を取引した際に本人へ通知が無く仕組み、事前登録により本人以外も受け取りが可能。

## 『部落差別の解消の推進に関する法律』<sup>※</sup> 2016年12月16日 施行

### 〈概要〉

部落差別の解消を推進し、**部落差別のない社会**を実現することを目的とする法律。

### (教育及び啓発)

**第五条** 国は、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うものとする。

- 2 地方公共団体は、国との適切な役割分担を踏まえて、その地域の実情に応じ、**部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うよう努めるものとする。**

○※啓発は部落差別解消推進法。両対法とは異なり施行の目的が啓発の促進ではない。

## 現状からみる成果と課題

### 同和・人権教育の成果

同和問題の改善

人権擁護の精神

解決すべき課題

変化する実態

認知率の低下

教育への不信

**どのように解決していくのか？**



## 教育に期待されること

25



○

## 教育に期待されること

26

解決すべき課題

変化する実態

### 同和問題解決に向けた取り組み

本人通知制度、統一応募用紙、部落差別解消推進法 施行など

⇨日常的な場面での差別の解消に機能

新たな差別の実態 インターネット

20代の19%がネット上で差別を目撃 ⇨ **傍観は解決に繋がらない**

ネットリテラシー教育<sup>\*</sup>の連携など、実態に対応した様々な角度からのアプローチ

○ <sup>\*</sup> 若者の意識や身体の判断、セキュリティなど、インターネットの機能を適切に扱う能力のこと。

## 教育に期待されること

27

解決すべき課題

認知率の低下

認知率の低下は部落差別解消につながるか？

知らない ~~差別を知らない~~ = **差別をする側になるかもしれない**



### 全府立学校で同和教育を実施

- 中学校・高等学校で年度内に各学年で実施
- **支援学校の中学部・高等部で卒業までに実施**

○

## 教育に期待されること

28

解決すべき課題

教育への不信

これまでの同和教育を疑問視する声

37.6% “内容を変えて行うべき” } **51%が否定的な意見**  
 13.4% “行わないほうが良い”<sup>\*</sup> (肯定的な意見は26.8%)

### 当時の同和教育の課題

差別の厳しさのみを教える、暗い、重い、マイナスイメージが旧同和地区出身の子供たちの自尊感情を低下させ、その他の生徒の部落問題に対する忌避意識を助長する

### 学習内容の見直しが必要

○ <sup>\*</sup> 未だえて問題に繋がらず、人々が恐れることで解決を阻むという考え。“嫌た子を取こすな”とよく言われる。

### これからの同和教育



明るい印象・解決の展望

正しい知識・理解

差別を見抜き、なくす力

課題解決に取り組む姿勢

同和問題  
とは何か

P3～4

歴史的経緯

P5～12

現状と実態

P13～24

教育に期待されること

P25～29

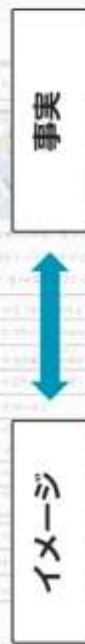
実践に向けて

P30～36

実践例① 「カラスのイメージは？」

カラスは「悪い」動物だと思いませんか？	はい/いいえ
カラスは「汚い」動物だと思いませんか？	はい/いいえ
カラスは「可愛くない」動物だと思いませんか？	はい/いいえ
カラスは「怖い」動物だと思いませんか？	はい/いいえ
カラスは「うるさい」動物だと思いませんか？	はい/いいえ
カラスは「かわいくない」動物だと思いませんか？	はい/いいえ
カラスは「かっこ悪い」動物だと思いませんか？	はい/いいえ
カラスは「おもしろくない」動物だと思いませんか？	はい/いいえ
カラスは「愛しい」動物だと思いませんか？	はい/いいえ
カラスは「気持ち悪い」動物だと思いませんか？	はい/いいえ
カラスは「かっこいい」動物だと思いませんか？	はい/いいえ

実践例② 「カラスのイメージは？」



－迷信・先入観と事実の比較

差別を見抜き、なくす力

－事実だと思っていた誤った知識

正しい知識・理解 の大切さ



実践例②「統一応募用紙について考える」

実践例②「統一応募用紙について考える」

「社用紙の項目で、何が差別に当たるだろうか？」

差別につながる項目を見つける

差別解消のための統一応募用紙について知る

差別を見抜き、なくす力

明るい印象・解決の展望

「今ある人権課題を考え、見直せる箇所はどこだろうか？」

問題点を見つけ出し、解決を図る

課題解決に取り組む姿勢

“部落問題学習 教材・資料提言集”

- 第1章 部落問題学習を進めるにあたって
- 第2章 部落問題学習の実施計画を構想する
- 第3章 部落問題学習 実践事例  
実践事例 I ～IV(23p～93p)

ご活用の際は人権委員までお声がけください

部落問題学習

教材・資料提言集

人権委員会  
部落問題学習部

資料紹介

①大阪府教育センター配布資料 + 本スライド・資料・原稿

[イカ・初任・ド・中津Sフォルダ・委員会・人権委員会・2020年度・校内人権研修]

②府立人権 2020年度 秋季セミナー討議資料

[人権委員にお声がけください]

③法務省 人権擁護局 「部落差別の実態に係る調査結果報告書」

[<http://www.moj.go.jp/content/001327359.pdf>]

④「同和教育の変容と今日的意義 - 解放教育の視点から -」

[[https://www.jstage.jst.go.jp/article/kyoiku/85/4/85\\_420/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/kyoiku/85/4/85_420/_pdf)]

同和問題 とは何か P3～4	歴史的経緯 P5～12
	現状と実態 P13～24
教育に期待されること P25～29	
実践に向けて P30～36	

●ご清聴ありがとうございました



## 人権研修を受講して①

～不登校問題を考える。長崎県立諫早東特別支援学校及び長崎県立子ども医療福祉センターとの連携から～

### 1. 長崎県立諫早東特別支援学校の紹介

長崎県立諫早東特別支援学校は、長崎県諫早市にある病弱部門の特別支援学校であり、長崎県立子ども医療福祉センター（医療型障がい児入所施設【以下：センターと略】）と隣接している。センター入所の児童生徒が通学している他、例外的に近隣に住んでいる肢体不自由の児童生徒も通学することが認められている。（通学バスがないため、保護者送迎が可能な場合に限る）

### 2. 長崎県立子ども医療福祉センターの紹介（一部HPより抜粋）

児童福祉法に基づく障害児入所施設であるとともに、医療法に規定する病院でもある。以前は、整形外科による治療や生活訓練を中心としていたが、平成13年度から小児科各科を増設し地域療育部門を新設。また、平成17年度から歯科、泌尿器科、耳鼻咽喉科の非常設科を増設し、現在はすべての障害児を対象とした県下の拠点的な施設としての役割を担っている。入所される場合は、原則として児童福祉法による利用契約となるが、障害児入所施設の対象とならない児童については、健康保険による入院となる。本センターの特徴として子どもの心と体の発達の支援と治療を行っており、発達障がい全般の他、不登校等心の問題にも取り組んでおり、養育相談に力を入れている。

### 3. 不登校問題への取り組みを通じての考察（長崎県立子ども医療福祉センター 小柳Drより）

不登校問題は、1つの明確な問題が起因しているよりも、複数の問題が複雑に絡み合って起こる場合が少なくない。きっかけとなる出来事（誘発因子）が、生活環境（学校や社会）や家庭生育環境、心理的環境（不安障がい、個々の特性）にそれぞれ関係することから、様々な角度から問題を考えていく必要がある。また、不登校を悪として捉えるのではなく、子どもたちが抱えている問題を客観的に捉えることが必要だ。その為には、当事者の子どもとの関係を丁寧に構築し、その子どもから発せられた言葉をくみ取っていく。一方で、その言葉から発せられた問題を一つの問題として片づけるのではなく、他にも要因がないかを常にアンテナを張り巡らせながら捉えていくことが重要である。理由は、上記に記載している通りである。その際、我々大人が全てを解決するのはなく、子どもたち自身の可能性を信じ、一緒に問題解決に向けて取組もうとする姿勢を見せることが大切だ。心の問題は、本人の協力がなしにはと解決に結びつかない。従って、当事者の子どもとの信頼関係から安心感を与え、本人の長所や良さを認めることがやがて自己肯定感の向上を図ることが求められる。不登校の児童生徒は、今この間にも苦しんでいる。画一的なアプローチではなく、子ども一人ひとりのニーズに合わせた方法で、共に歩んでいく姿勢が我々に求められている。

### 4. 研修を受講して

長崎県立諫早東特別支援学校は、医療型入所施設と隣接し、様々な事情から家庭から離れて施設で生活する児童生徒が大半を占める等、本校と共通点があることから興味をもった。（本校と違い一部通学生もいる）本校同様、家庭生活を送れないが故に抱える問題もあり、センターと連携して様々な取り組みを実践していて大変勉強になった。その中で、不登校問題は、どの学校でも起こりうる問題であり、本校においても今後、過去に不登校歴のある児童生徒が在籍する可能性はあるだろう。その時に、今回の研修を通じて学んだことをどう活かしていくのか、その為には何が必要なのか、今後も、様々な不登校問題の事例と共に考えていきたい。



## 人権研修を受講して②

～主体的・協同的に取組む人権総合学習～ 貝塚市立東小学校（R2年度 大阪府教育センター研究フォーラムより）

### 1. 主旨

新型コロナウイルス感染症拡大が子どもたちの生活に大きな影響を及ぼしている今、課題解決のために自分たちに何ができるのかを子どもたちと考えることが非常に大切である。そこで、本フォーラムの分科会（持続可能な開発目標SDGsと人権教育）では、子どもたちが身近な課題から仲間の思いや人権の大切さについて理解を深めていく実践例とともに、講演を通じてSDGsの理念である「誰一人取り残されない社会の実現」に向けて、どのような人権学習に取り組むことができるか、各学校の取り組みを通じて考えていく。

※本報告では、貝塚市立東小学校の取り組みを紹介する。

### 2. 貝塚市立東小学校のめざす人権教育について

貝塚市の中心部に位置する小学校であり、素直で元気な子どもたちが多く、協力的な保護者も多数いる一方で、様々な課題のある児童も散見される。この学校では、人権教育にも力を入れており、決してやらされている教育ではなく、自ら「やりたい」と思える教育を目指している。例えば、最初から「戦争はダメ」と教えるのではなく、子どもたち自身が様々な経験を積んで「自分から戦争はダメと思えるような」学習をめざしている。

### 3. 研修について

この研修では、次頁の学習指導案についての実践例をAくんを中心に軸を置いた形で展開された。

※Aくんについて

Aくんは、母親の病気等、家庭の事情から何事にも消極的で自己肯定感が低く、気分の安定が難しいため、友だちとトラブルになってしまうことが度々あった。しかし、友だちと大きなトラブルになってしまう場面で、母親をはじめ周囲が解決に向けて積極的に関わる中で、Aくんにも少しずつ変化が見られ、家のお手伝いを頑張る姿が見られてきた。

ある日の授業で、子どもたちから「1年生が困っている姿をよく見る」という意見が出て、生活科の授業で取り組むことになった。1年生の教室に向いて、一緒に教室探検をしたり、1年生がよく行く特別教室までの順路を画用紙に描いて廊下に貼ったり、休み時間に一緒に遊んであげたりと色々なアイデアが子どもたちから出た。その中で、Aくんも、休み時間に困っている1年生に手をつないであげる姿が見られるようになった。

### 4. 研修を受講して

研修で受講した貝塚市立東小学校の取り組みは、子どもたち自身が問題への気づきがあったからこそ、色々なアイデアを出し、自ら取り組む姿勢が見られた。これこそが、本研修の主旨であった「子どもたちが身近な課題から仲間の思いや人権の大切さについて理解を深める」実践例ではないかと考える。人権教育は、学校種に関わらず全ての子どもたちに必要であり、持続可能な次世代の社会を築く子どもたちにとって必要不可欠なものである。今回の研修を受けて、本校でどのような人権教育が必要であり、それが実践可能なのであろうか。今後も、様々な人権研修の参加を通じて深めていきたい。





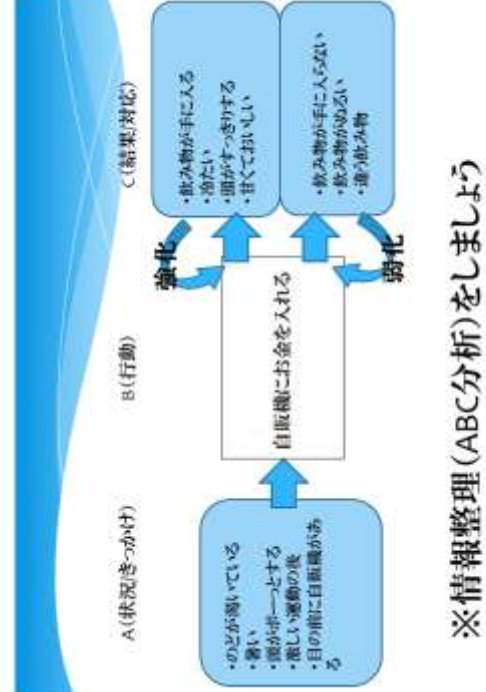
# 校内研修資料： 地域支援委員会①

## はじめに

- 「応用行動分析」を学んだ経緯
- 夏の研修
- 高等部の協力を得て

## ABA(応用行動分析)

で指導・支援を考える



応用行動分析なし

追いかけて着席させない、と！！

応用行動分析あり

少し様子を見てみよう





## 記録を取ってみましょう

### 体感数値

- ・客観的な視点
- ・情報共有がしやすい
- ・効果の有無がわかる

### 記録方法

#### 回数(有無)

→起こった回数(有無)で記録する(例:座席や暴言の回数)

#### 行動カテゴリ

→あらかじめカテゴリを作って記録する  
(例:1.暴言2.つかみかか3.たたく4.蹴る5.突き飛ばす)

#### 時間

→その行動が起きてから終わるまでの時間、指示を出してから行動するまでの時間などを記録する

## 情報整理(ABC分析)をしましょう

### A(状況きかけ)

- ・場番が変わるとき
- ・自分の順番のとき
- ・起きたとき
- ・トイレ指導時
- ・学院で車いすから座席保持椅子に移乗するとき
- ・道中に多い

### B(行動)

**大声  
暴れる  
他害行為**

### C(結果対応)

- ・人が関わる
- ・その場から遠退できる?
- ・ストレス発散?

## 事例

### 高等部女子 Aさん

細菌性髄膜炎後遺症。ウェスト症候群。1種1級。  
座位保持椅子・車いす・SLB(内外2足)・マイウオーカー

楽しいことが好き。歌や会話、絵本など楽しむ。歌はすぐに覚えて、ロディーをそれなりに捉える。会話や絵本もある程度理解でき、身振りや表情で表現する。周囲の人と関わりたがり、手招きしたり呼びかけたり、手を取ったりする。友だちや年下の子どもには優しい。

やりたいことができなかつたり、思いと違った展開になると、大声や全身で拒否を示す。関わる教員へ他害することもある。トイレ指導時や、車いすの移乗時など日常生活で必要な場面の展開で、拒否を示すことが多い。

## Aの行動記録(指導員)

トイレのブースに入った時、大声を出す

行動 場面	トイレ指導				満足
単位	有	無	有(大声を出す)	無(大声を出さない)	〇
月日	1回目	2回目	3回目	4回目	
9/7(月)	〇	〇	〇	△	部の生徒数は多量出席だった
9/8(火)	△	〇	〇	△	
9/9(水)	〇	△	〇	〇	
9/10(木)	〇	△	△	△	午前中下校時にだったので早歩きで帰る
9/11(金)	△	〇	〇	〇	学校で済ませる
9/14(月)	〇	〇	〇	〇	
9/15(火)	〇	〇	〇	〇	
9/16(水)	△	〇	〇	△	
9/17(木)	〇	〇	△	〇	
9/18(金)	〇	〇	〇	〇	

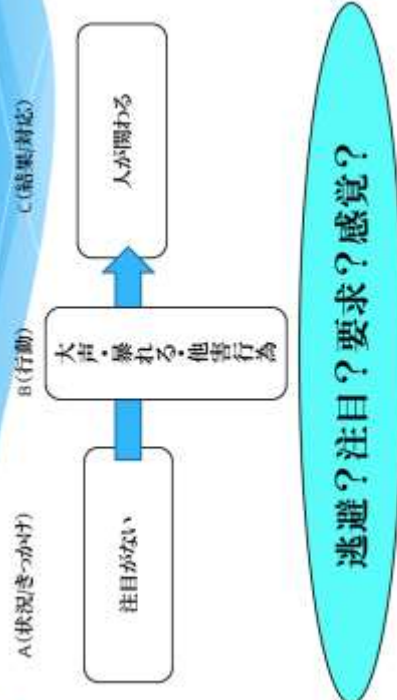
### 記録より

- ・記録を取り始めると、前週よりうまくいくことが多い気がする。
- ・学校より気持ちよく登校できているときは、問題なく済ませることが多い気がする。

## 「なぜ？」を考えるヒント(行動の機能)

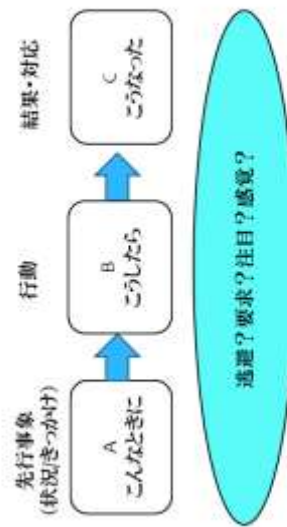


## 「なぜ？」を考えるヒント(行動の機能)

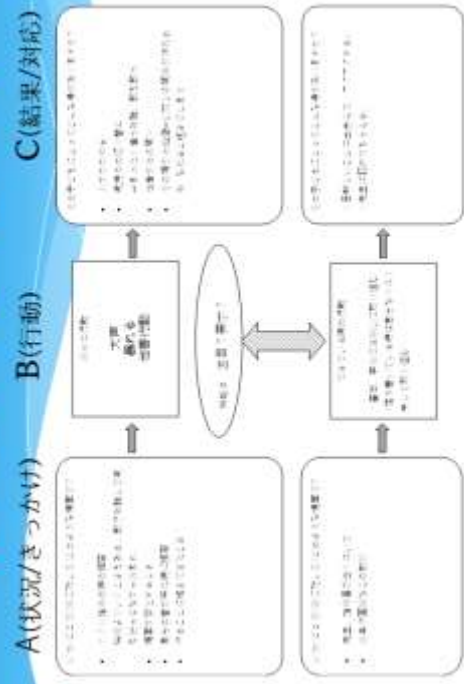


## 行動理解の流れ

1. 行動の前後に注目(記録)
2. ABC分析で整理
3. 行動の機能を考える



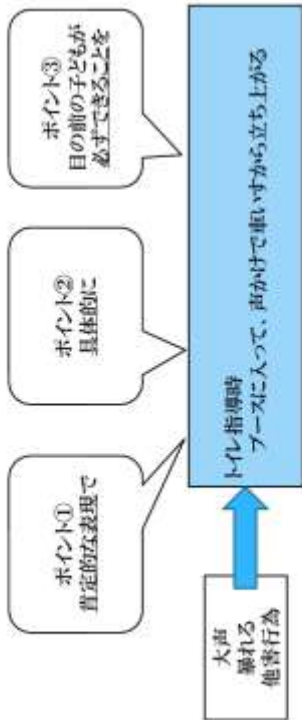
## 気になる子どものABC分析



# ターゲット行動を決めましょう

## ターゲット行動とは？

→ 困った行動に代わる適切な行動のこと

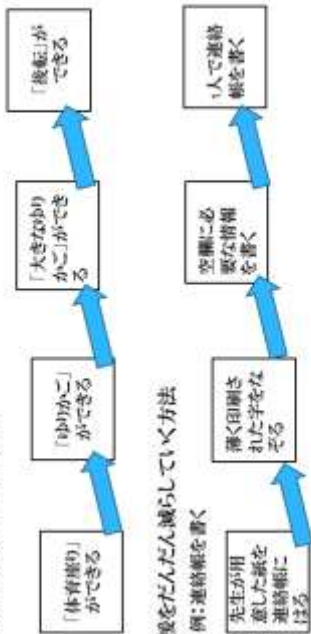


# スモールステップ

成功体験を重ねる中で  
確実に目標に近づけていく

課題をだんだん難しくする方法

例：マット運動の「後転」をする



支援をだんだん減らしていく方法

例：連絡帳を書く

# プロンプト

(ターゲット行動を引き出すヒント)



**言語プロンプト**

言葉で指示を出す

**視覚プロンプト**

絵、写真、文字、サイン

**身体プロンプト**

動きを誘導

**モデリング**

お手本

# 行動の前に行える指導・支援は？

あらかじめできること

環境面の工夫

- ・トイレ指導時には遠くは通ばず、静かに待機する。
- ・できるだけ短時間で済ませるように、必要なのは準備しておく。
- ・トイレ指導に行く教員は固定せず、色々な教員と行く。
- ・できれば、意図前の本人の状態(気持ち)を確認する。そもそも機嫌が悪いときには、気持ちを取り直させるのを待つ。
- ・その子どもとの間で
- ・トイレが終わったら、進ぶことを告げる。
- ・周囲の人(他児/教員)と
- ・トイレが終わった時に進ぶ、要める。
- ・トイレ指導へ行く教員を固定すると、慣れが生じて相手の立場が壊れることが想定できるので、色々な教員が関わる。

大声・暴れる・他書行為の直前にできること

- ・後をつたえたら進ぶことを告げる。
- ・トイレで何をしていいかわからないのか、相談する。(電話二つ、お話、本、歌など)
- ・そもそも機嫌が悪い時には、行かない。



# 行動の後にできる指導・支援は？

うまくいったとき

- 適切な行動が見られた段階でほめる(25%ルール)
- 関わって遊ぶ、(会話、取り出す、遊、ヒアノ等)
- 要求を受け入れる。(人の選定、遊びの選定)

→授業が始まったら、切り替えること！

うまくいかなかったとき

- 残念であることを、端的に伝える。
- トイル指導は中止し、気持ちをリセットされて後に行く。
- 他者行為については、無視することが望ましい。(消去に繋がる)

# 消去≠無視

- 子どもを無視するのではない
- 行動の前と後で何の変化も起こさない
- 同時に適切な行動を引き出す

※消去パーストに気を付けて！

- 妥協すると、行動を強化することになる
- 消去を続けると同時に、適切な行動に置き換えていく。

# 事例の指導・支援

A(状況/きっかけ)

- あらかじめ**  
トイル指導前に、遊ばない、トイル指導に行く教員は固定しない。  
できれば、専科前の本人の状況(気持ち)を確認する。そもそも嫌味が悪いときには、気持ちが収まるのを待つ
- 直前**  
終わったら遊ぶことを告げる。トイルで何をしていたか思い出せるのか、相談する。(遊ばない、お話し、おまなど)  
そもそも嫌味が悪い時には、行かない。

B(行動)

- トイル指導時に、ブーストに入って、声かけで思いやから立ち上がる
- 大声 暴れる 他者行為

C(結果/対応)

- 適切な行動が見られた段階でほめる(25%ルール)
- 関わって遊ぶ、(会話、取り出す、遊、ヒアノ等)
- 要求を受け入れる。(人の選定、遊びの選定)
- 残念であることを、端的に伝える。トイル指導は中止し、気持ちをリセットされて後に行く。他者行為については、無視することが望ましい。(消去に繋がる)

# 気になる子どもの指導・支援計画

A(状況/きっかけ)

- 児童が、授業中に、トイル指導を受ける。トイル指導を受けるのは、児童が、授業中に、トイル指導を受ける。トイル指導を受けるのは、児童が、授業中に、トイル指導を受ける。
- 児童が、授業中に、トイル指導を受ける。トイル指導を受けるのは、児童が、授業中に、トイル指導を受ける。
- 児童が、授業中に、トイル指導を受ける。トイル指導を受けるのは、児童が、授業中に、トイル指導を受ける。

B(行動)

- トイル指導を受ける。トイル指導を受けるのは、児童が、授業中に、トイル指導を受ける。
- トイル指導を受ける。トイル指導を受けるのは、児童が、授業中に、トイル指導を受ける。
- トイル指導を受ける。トイル指導を受けるのは、児童が、授業中に、トイル指導を受ける。

C(結果/対応)

- 児童が、授業中に、トイル指導を受ける。トイル指導を受けるのは、児童が、授業中に、トイル指導を受ける。
- 児童が、授業中に、トイル指導を受ける。トイル指導を受けるのは、児童が、授業中に、トイル指導を受ける。
- 児童が、授業中に、トイル指導を受ける。トイル指導を受けるのは、児童が、授業中に、トイル指導を受ける。

- プロンプト(視覚的補助)やモデルリングは、パルスより活用できていますか？
- うまくいった時、子どもが習得の機会を増やせていますか？
- うまくいかなかったとしても、最初はじめて指導を受けることができましたか？

### Aの行動記録(指導後)

行動場面	トイレのブースに入った時、大声を出す				トイレ指導			
単位	有(大声を出す)→○	有(大声を出す)→○	無(大声を出さない)→○	無(大声を出さない)→○	有(大声を出す)→○	有(大声を出す)→○	無(大声を出さない)→○	無(大声を出さない)→○
月日	1回目	2回目	3回目	4回目	1回目	2回目	3回目	4回目
11/20(月)	○	○	○	○				
11/23(木)					○	○	○	○
11/4(水)					○	○	○	○
11/5(木)					○	○	○	○
11/6(金)					○	○	○	○
11/9(月)					○	○	○	○
11/10(火)					○	○	○	○
11/11(水)					○	○	○	○
11/22(水)					○	○	○	○
11/23(木)					○	○	○	○

## 成果と課題

### 成果

記録から見取れるように、教員間で情報共有を行い、記録をつけることで能動的に導かれる場面は減っている。本人の直感で、記録していることが影響しているかもしれない。

→まぐい「たどたどし」「賢かったわー」と褒めることを継続することで、本人が自分の頭を働かせて「賢い」とアピールする場面が出てきた。(トイレだけでなく学校生活のあらゆる場面)

→まぐい「かっかっか」時に、すぐに中止しクールダウンしてから行く、本人の中にも「ますかっか」と反省することもあるのか、スムーズに行える。(ことが多い)

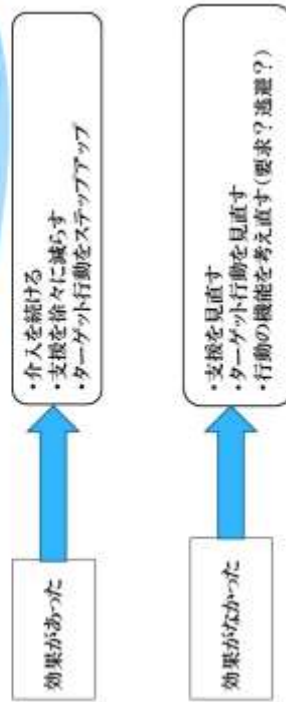
→以前は、導かれていることを問題視するばかりで、スムーズに行えたことが当たり前であった。今回の取組みでは、スムーズに行えたことを(+)評価するといわゆる単純なことには気づかされた。

### 課題

→トイレ指導や移乗がスムーズに行えることは、介助者として便利になっただけなのかもしれない。本校の子どもたちはベースの部分で満たされているといいたいところもあり、大声を出すことで訴えている側面を思いを寄せる必要があるが、寄せたところで学校で何ができるのかを考えると心苦しい。

→それでも、学校で過ごす時間の中で、不適切な行動ではない行動で自分の気持ちを訴えたり、代償行動を身につけて行く指導を続けていくことが、私たち教員の使命(大変な?)です。それは、教員一人では絶対無理なこと、子どもに関わる周囲の人たちが、目的を共有して初めてよい方向へ進むと信じているし、体感上実際にそがなのです。加えて、難しい面で指導するのではなく、指導の中での子どもの関わりをお互いに楽しみ、成長を感じたいと願っています。

## 指導・支援の結果



## まとめ

### 行動理解の流れ

1. 行動の前後に注目(記録)
2. ABC分析で整理
3. 行動の機能を考える

### 指導・支援の流れ

1. ターゲット行動を設定する
2. 行動の前後の指導・支援を考える
3. ターゲット行動を引き出す
4. 効果があつたか確認する

### 行動記録



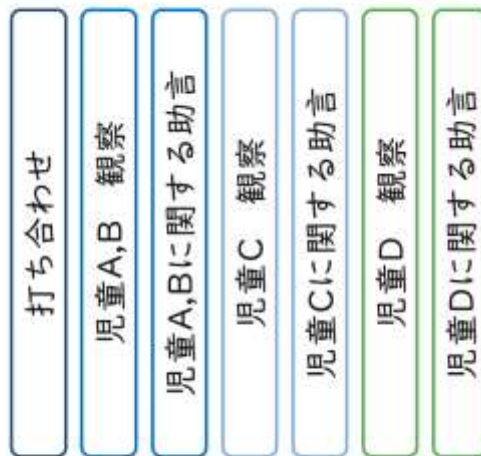


## 校内研修資料：地域支援委員会②

### 本日の流れ

1. 概要
2. 相談票から
3. 学校での様子
4. 事例検討
5. 実際の助言内容
6. まとめ、感想

### 流れ



## 訪問支援相談報告会

### 1. 概要

日程：6月22日（月）

場所：〇〇市立

〇〇小学校

訪問人数：〇〇市教育委員会1名、

〇〇市通級指導員2名、

〇〇ブロックLS2名

計5名

相談児童数：2年生1名、4年生3名

計4名

## 2. 相談票から

### 児童C

学年：2年生  
障害等の状況：自閉スペクトラム症



### 学習面

- ・集中力が続かない。
- ・初めての学習が苦手。パニックになる。

### 生活面

- ・見通しが立たないと落ち着かない。
- ・やることがはつきりしないと、離席する。
- ・注意されると笑ってしまう。

### 対人関係面

- ・自分の思っただけで関わってしまう。
- ・してはいけないことをして、相手を困らせる。  
→友だちとのトラブルが多い。

## 3. 学校での様子

### 生活（自習）

- 訪問者を見て、「不審者ですか？」と尋ねる。  
教室から出たり入ったりを繰り返す。
- 本児専用のスケジュール表**を用いて、その都度、予定を確認している。
- 振り返りノート**を用いて、その日のよかったところ・悪かったところを振り返っている。



## 4. 事例検討

### 相談内容

#### 生活面

- ・落ち着いて過ごすための支援方法
- ・衝動的に行動しているときの対応方法

#### 対人面

- ・自分の思っただけで一方的に関わってしまう
- ・休み時間等友だちとの過ごし方

## 5. 実際の助言内容

～落ち着いて過ごすための支援方法～

- ・スケジュール表は継続して使用する。  
視覚支援を大切に。
- ・初めてのことをする際には、あらかじめ知らせしておく。
- ・ルールを口頭で伝えるのではなく、書いてはっきりと示す。

～衝動的に行動しているときの対応方法～

- ・いいこと悪いことがわかっているか  
というよりは、衝動的に行動している。  
→その都度、話をして確認する。
- ・危険な行動をしている際には、  
端的に厳しく叱る。  
落ち着いてから、行動を振り返る。



～自分の思いだけで  
一方的に関わってしまう～

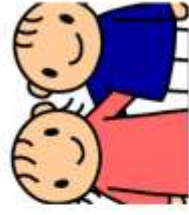
- ・SSTで接し方のルールを学ぶ。

図書紹介：『なぜなぜ会話ルールブック』



～友だちとの休み時間の過ごし方～

- ・1日の中で1回でも友だちと過ごす時間を  
設定する。  
→低学年の間に友だちと関わって、  
関係づくりをしていくことが大切!
- ・友だちと上手なかかわり方ができた時には、  
その場で褒める。



### ～クラス全体への支援～

- ・教室環境を整える。  
→水筒の置き場所を決める。  
教室の前の掲示物は外し、すっきりさせる。
- ・書く時の姿勢を正す。
- ・クラスルールを決めて、掲示するなど  
明確化させる。



## 6. まとめ・感想

### まとめ

- ・短時間の場合の時間配分について。  
助言の時間を充実させるために。
- ・担任や支援学級の先生方へ助言するだけではなく、悩みに共感しながら、先生方の取り組みも褒めることの大切さ。
- ・相談に上がっている児童の、よいところを伝え、再確認する。
- ・クラス全体の問題背景を担任に伝える。

## 6. まとめ・感想

### 感想

- ・知識の少なさ。
- ・短時間の観察で、その児童にはどのような支援方法がよいのか見極めることの難しさ。
- ・自分より経験が豊富な先生方にとどのように伝えるか。



# 防災士 資格取得（健康安全指導部）

はじめに

今年度（令和2年度）、本校では、健康安全指導部 防災係より防災士の育成をめざすこととなった。

これは、隣接する大阪整肢学院において、日常生活を行い、学校生活を本校で過ごす児童生徒の安全と安心を確保すること、および災害時におけるリーダーシップを発揮できる専門性を有する人材の育成により、地域の防災力の向上をめざすためである。

今年度は、その防災士資格の取得に関する流れを研究内容とし、報告したい。

\*\*取得までの流れ\*\*

ステップ1：日本防災士機構が認証した研修機関が実施する「防災士養成研修講座」を受講。「研修履修証明」を取得。

ステップ2：日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」を受験し、合格する。受験するには「研修履修証明」が必要。

ステップ3：全国の消防署や赤十字社などの公的機関で、『救急救命講習』を受ける。

ステップ4：日本防災士機構に『防災士認証登録申請』を行う。

【1】申し込み

日本防災士機構 HP によると 24 県、27 市区町村等、32 の大学等教育機関、3 つの民間法人で養成研修実施機関の紹介があったが、自治体が主催するものは一般的に主催自治体住民であることが条件であるなどし、今回申し込みそうなのは「防災士研修センター」の一択だった。しかしコロナの影響で中止続き。今年度は無理かと思われたが、7 月より座席減で再開され「11 月大阪（平日コース）」に申し込むことができた。

【2】研修3～4週間前。履修内容を網羅した360ページ超の『防災士教本』を活用し防災士の基礎学習を行う。

履修項目

<ul style="list-style-type: none"> <li>第1章 災害発生のおそい</li> <li>第1講 地震・津波による災害</li> <li>第2講 気象災害～風水害</li> <li>第3講 土砂災害</li> <li>第4講 火山災害</li> <li>第5講 巨震・大規模火災</li> <li>補講1 近年の主な災害概要</li> <li>第2章 災害に関する情報</li> <li>第6講 災害発生確率と予報・警報</li> <li>第7講 避難指示・ハザードマップと避難場所</li> <li>第8講 災害情報の伝達と動向</li> <li>第3章 公的機関や企業等の災害対策</li> <li>第9講 行政の災害対策と危機管理</li> <li>第10講 行政の災害対応・応急対策</li> <li>第11講 備忘・備前と被災者支援</li> <li>第12講 災害現場とてこのケア</li> <li>第13講 ライフライン・交通インフラの確保</li> <li>第14講 企業・団体の事業継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第4章 防災</li> <li>第15講 地震・津波への備え</li> <li>第16講 風水害・土砂災害等への備え</li> <li>補講2 防災対策と備え</li> <li>補講3 災害と備蓄対策</li> <li>●第5章 防災</li> <li>第17講 防災民防活動と防災訓練計画</li> <li>第18講 避難所の設置と運営能力</li> <li>第19講 地域防災と多様な人への配慮</li> <li>第20講 災害ボランティア活動</li> <li>●第6章 防災士制度</li> <li>第21講 防災士に登録される活動</li> <li>補講4 防災士が行う各種活動</li> </ul>
---	---

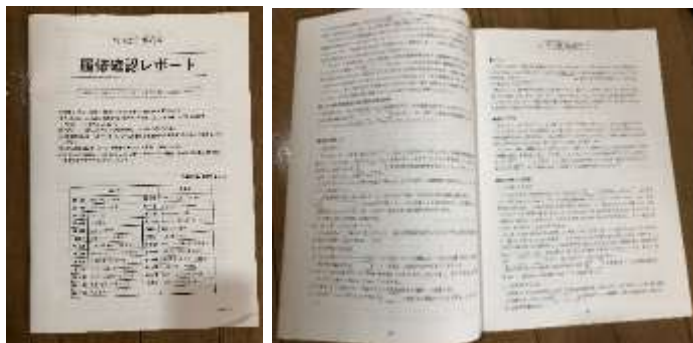
防災士教本



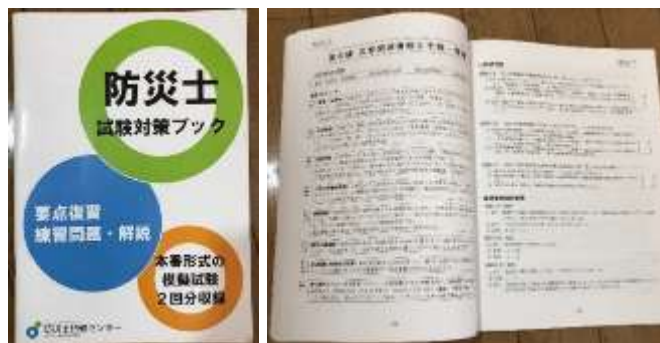


【3】『履修確認レポート』全 62 ページ。教本を読みながら作成。さらに『試験対策ブック』で試験対策。(レポートは講習初日に提出。試験は講習 2 日目の終わりに行われる。)

履修確認レポート課題



試験対策ブック



【4】11/5~6 2日間の講習

企業研修プログラム・大目録(11/5日)コース

●会場研修予定プログラム

	1日目(11/5) (8:50~9:05)	2日目(11/6) (8:50~9:05)
	開場 (9:05~9:30) オリエンテーション・受付	開場 (9:05~9:25) 受付・防災士資格取得試験についてのご案内
1時間目	(9:30~10:30) 地震・津波による災害 (佐々木講師)	(9:30~10:30) 気象災害・風水害 (中西秀夫講師)
2時間目	(10:40~11:40) 地震対策と補強 (佐々木講師)	(10:40~11:40) 自主防災活動と地区防災計画 (佐々木講師)
3時間目	昼食 (防災ビデオ上映)	(11:50~12:50) 企業・団体の事業継続 (山下勝講師)
3時間目	(12:40~13:40) 災害情報の活用と発信 (松井一洋講師)	昼食 (防災ビデオ上映)
4時間目	(13:50~14:50) ライフライン・交通インフラの確保 (松井一洋講師)	防災士が行う各種訓練 被害想定・ハザードマップと避難情報 (酒室一人講師)
5時間目	(15:00~16:00) 土砂災害 (山下 勝講師)	
6時間目	(16:10~17:10) 災害ボランティア活動 (村井雅清講師)	(16:10~17:30) 防災士に期待される活動 (佐々木講師)
7時間目	(17:10~17:20) 事務連絡	(17:30~18:30) 防災士資格取得試験

◎上記の時刻表は、講師の出席、交通事情、災害の発生等により変更することがあります。

●予定講師陣

河田 恵昭	(関西大学社会安全学部特別任命教授、人と防災未来センター長)
谷口 由美子	(元東京消防庁丸の内消防署長、防災士研修センター取締役研修部長)
中西 秀夫	(日本気象株式会社気象予報部 気象予報士、日本気象情報学会会員)
牧 紀男	(京都大学防災研究所教授)
松井 一洋	(広島経済大学名誉教授)
村井 雅清	(COPD正海外災害援助市民センター理事、被災地NGO協働センター顧問)
山下 勝	(NPO法人兵庫県防災ボランティア協会副理事長、シバタ工業株式会社理事)

◎五十音順、敬称略。



※会場は一切撮影禁止であったため、講習風景はパンフレット記載のもの。実際はコロナ対策で間隔をあけて着席。広い部屋に 80 名ほど。(男性 8 割強、女性 2 割弱。) ハードなスケジュールだったが、講習の内容は、今後の校内での防災活動を考えるうえで、非常に役立つものとなった。

【5】2日目講習後の 7 時間目に試験。3 択式で 30 問出題され、80%以上の正答で合格。『試験対策ブック』の難易度に比べると易しく、すぐ終わった。試験問題は回収。(→2週間以内に合否の知らせ)

【6】『救急救命講習』を受ける。救命救急講習もコロナの影響で、少人数枠での予約。

- 【7】日本防災士機構に『防災士認証登録申請』を行う。  
→『防災士認証状』と『防災士証カード』が届く。（1月末）



【資格取得の感想と今後の活動に向けて】

日々学校の通常業務をこなしながら短期間に莫大な情報量を詰め込みながら、防災士の資格取得に臨む状態となったため、頭の中が整理しきれない部分もあったが、今回防災の幅広い分野について知り、その専門性を習得する良いきっかけとなった。

日本は地震・火山活動・土砂災害等自然災害が多いことを改めて再確認するとともに、耐震化・耐震補強の大切さや、災害時には自助・共助がたよりということのをこれまでの災害が教えてくれており、それらの教えは無駄にはしてはいけないと思った。

災害発生時には、指示待ちになることなく、自分たち教職員が地域住民と協力しながら、判断しないといけない場面が生ずること、そして、自助が減災につながることを強く確認することができた。

大地震や多くの災害がいつ起こるともわからない状況の今、校内や地域等の身近なところからできる備えを少しずつ進めることの重要性、また、少しでも危機管理に対する認識を深め、周りの人の防災意識を高められるよう、今後の大阪府内支援学校の中でつなげられるようにしたい。



## 管外出張 報告

### 刈谷市立刈谷特別支援学校



令和2年度 管外出張 報告

令和3年2月12日, 13日

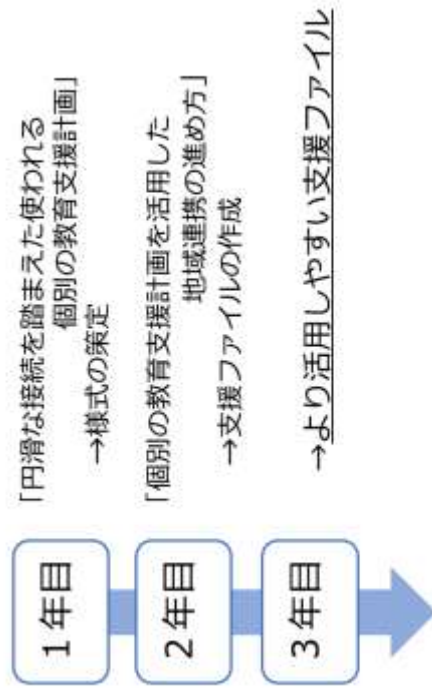
### 刈谷市立刈谷特別支援学校 第3回実践研究協議会

#### 特徴

- ・併設する小垣江東小学校の児童との交流及び共同学習を進めている。
- ・「医療法人豊田会刈谷豊田総合病院」からの出向看護師による医療的ケアを実施。

有効活用される  
個別の教育支援計画を目指して

## 個別の教育支援計画の研究



## 現状…

- ▷個人情報保護の観点から、校内の金庫で保管。
- ▷個別の教育支援計画をもとに関係諸機関との支援会議を実施されていない事例も多く、専門家等を交えた「策定」には至っていない。

“活用されていない”という課題がある

## 個別の教育支援計画

- ・障がいのある児童生徒についてそのニーズを正確に把握し、家庭、地域及び医療や福祉、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童生徒への一貫した教育的支援を行うために策定する計画。
- ・策定に当たっては関係機関との連携が必要。また保護者の参画や意見等を聴くことが求められている。

※中央教育審議会答申（平成17年12月8日）より一部抜粋

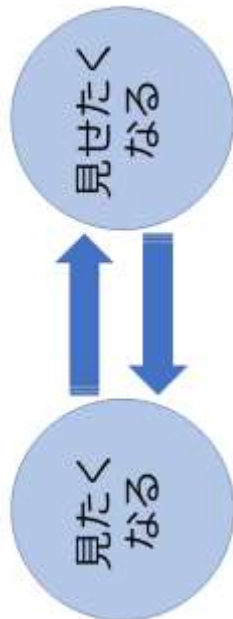
## 支援ファイル



- ・保護者による同意書、情報提供承諾書に基づき情報を共有、活用
- ・保護者による、支援に関する資料の管理
- ・本人、保護者による携帯  
→児童生徒の通学バッグに  
常時入れる



**より活用しやすい  
支援ファイル**



見やすい、わかりやすい子どもの情報

**提案1  
コミュニケーションモードの追加**

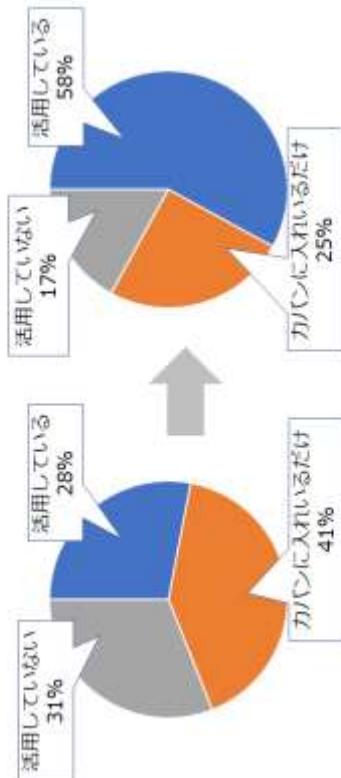
児童生徒のコミュニケーション手段や関わり方をわかりやすく説明したもの。各教室に掲示し、児童生徒に初めて関わる職員でも関わり方が分かるように作成している。



**提案2  
学校生活の様子が分かる写真の追加**

**保護者アンケートから**

・支援ファイルを活用していますか？



**保護者アンケートから  
感想・意見**

- ・学校、相談支援事業所、利用している放課後等デイサービス、それぞれの支援計画を補完・共有するのに役立っている。
- ・子どもの関係機関との共通理解を図るための重要なツールとなっている。
- ・コミュニケーションモードと写真はただが見てもわかりやすくてよい。学校と外では見せる姿が違い、本当はできることを外の人が知れた。



## まとめ

3年目

「個別の教育支援計画を活用した  
地域連携の進め方」  
→より活用しやすい支援ファイル

コミュニケーションモードの追加  
学校生活の様子が分かる写真の追加



支援ファイルの活用率 **+30%**

## 今後について





# 指導集 等



## 指導略案： 外国語①

- 1 教科 / 単元 外国語 / 「What would you like?」(Hi, friends! 1 Lesson 9)
- 2 日 時 令和2年10月5日(月) 第7校時
- 3 場 所 2階 図書ホール
- 4 生 徒 中学部FGグループ 2年(3名)・3年(1名)計4名
- 5 指 導 者 T1(Main)、T2
- 6 単 元 目 標
- ・欲しいものについて丁寧に積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
  - ・欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。
  - ・世界の料理に興味をもち、欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気付く。
- 7 単元の評価規準
- ・欲しいものについて丁寧な言い方で積極的に尋ねたり答えたりしている。【コ】
  - ・欲しいものについて丁寧に伝えたり、尋ねる表現を聞いたり言ったりしている。【慣】
  - ・世界には様々な料理があることや、欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気付いている。【気】

### 8 展 開

PROCESSES	TEACHING MATERIALS	ACTIVITIES	
		T1/T2	STUDENT
・ Greeting	・ ♪ Hello song ・ 挨拶	・ Good afternoon, everyone. ・ How are you?	・ Tの語りかけや問いかけに答える。
・ Warm-up	・ 歌・動作・チャンツなどのウォームアップ ♪ 「Head, shoulders, knees and toes」(歌・動作) ♪ 「Walking, Walking!」(歌・動作) ♪ 「Hokey Pokey」(歌・動作) ♪ 「If you're happy」(歌・動作) ♪ 「Number song 1-20」(歌) ♪ Alphabet chants	・ 音声教材を聞かせ、表現させる。	・ 音声教材に合わせて、表現する。  ・ 一人ずつ発表する。
・ Review	・ 既習の語彙確認と発音練習	・ <u>メニューにある語彙の確認をする。</u>	・ <u>発音を復唱する。</u>
・ Introducing new learning  ・ Practicing	・ Let's Listen の聞き取り問題  ・ 客と店員になって What would you like? I'd like ~. のやり取りの練習	・ 教材を提示し、 <u>What would you like? の表現を思い出させる。</u>  W: Hello. What would you like? C: I'd like ~. W: OK. (Repeat) C: Yes, please. W: Here you are. C: Thank you.  ・ <u>生徒の発表を支援する。</u>	・ 音声を聞いて、 <u>誰か何を注文したのかを聞き取って答える。</u>  ・ Dialogue の説明を聞く。  ・ 客と店員になって、注文場面のやり取りをする。 ・ 相手や役割を変えながら発表する。
・ Activities	・ Game 「Missing game」 「What's missing?」 (メニューにある語彙のフラッシュカードを使って、何がなくなったかを当てるゲーム)	・ ゲームのやり方を説明する。	・ ゲームのやり方がわかり、ゲームをする。
・ Summary or consolidation	・ 本時の振り返り ・ 次時の予告 ・ 挨拶 ♪ Good-bye song	・ 学習の整理と評価をする。 ・ 次時の学習内容を伝える。 ・ 挨拶をする。	・ 本時の学習を振り返る。 ・ 次時の学習内容を知る。 ・ 挨拶をする。

※ は電子黒板を活用




## 指導略案： 外国語②

- 1 教科 / 単元 外国語 / 「アメリカからの転校生」(Sunshine English Course 1 Program2)
- 2 日 時 令和2年9月24日(木) 第5校時
- 3 場 所 2階 CR8
- 4 生 徒 中学部F1グループ 2年 1名
- 5 指 導 者 T1 (Main)、T2
- 6 単 元 目 標
- ・英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
  - ・be動詞の用法を正しく身につけ、運用する。
- 7 単元の評価規準
- ・積極的に自己紹介をしたり相手の自己紹介を聞いたりしようとしている。〔活動の観察〕
  - ・たずねられたことに対して、適切に応答する。〔(後日)対話テスト、リスニングテスト〕

### 8 展 開

PROCESSES	TEACHING MATERIALS	ACTIVITIES	
		T1/T2	STUDENT
・ Greeting	・ 挨拶	・ Good afternoon. ・ How are you?	・ Tの語りかけや問いかけに答える。
・ The Vocabulary test	・ 単語テスト	・ 画面に単語テストの問題を映す。 ・ 解答を確認して、保存する。	・ 単語テストをする。 ・ 画面にタッチペンで書き込む。
・ Review	・ Section1の確認と発音練習 Hi, I am Yuki. Oh, you are Yuki. I' m Mike. .	Dialogの確認をする。	・ 音声教材の発音を復唱する。
・ Introducing new learning  ・ Practicing	・ New wordsの発音練習と日本語訳を調べる。  ・ 「Aer you ~?」とその応答の仕方を知る。  Are you a volleyball fan? Yes, I am.  / No, I' m not. I' m not a volleyball fan.  ・ 音読練習 ・ 内容理解 ・ リスニング問題をする。	・ New wordsを提示する。  ・ Dialogを提示する。 ・ be動詞(肯定・疑問・否定)を説明する。 ・ 音声を聞かせて内容を推測させる。  ・ 発音やアクセントに注意させる。 ・ 板書に書いた英文を提示する。訳を加える。 ・ 音声教材を流す。 ・ 正誤確認をする。	・ 音声を聞いて、復唱する。 ・ 教科書の巻末の辞書で調べて、ノートに写す。 ・ 説明を聞く。  ・ 内容を推測して、発表する。  ・ 音声教材を聞いて復唱する。 ・ 日本語訳を考えて、発表する。 ・ ノートに整理をする。 ・ 教科書に解答をする。
・ Summary or consolidation	・ 本時の振り返り ・ 次時の予告 ・ 挨拶	・ 学習の整理と評価をする。 ・ 次時の学習内容を伝える。 ・ 挨拶をする。	・ 本時の学習を振り返る。 ・ 次時の学習内容を知る。 ・ 挨拶をする。


※  は電子黒板を活用



## 指導略案： 自立活動（みるきく）

- 1 教科 / 単元 自立活動 / 「みるきく」  
 2 日 時 令和2年9月15日（火） 第5・6校時  
 3 場 所 2階 CR9/SCR2  
 4 生 徒 中学部 DE グループ 1年（5名）・2年（1名）3年（1名）計7名  
 5 指 導 者 T1（Main）・T2・T3・T4・T5  
 6 自立活動の項目  
 2 心理的な安定 （1）情緒の安定に関すること（2）状況の理解と変化への対応に関すること  
 3 人間関係の形成 （1）他者とのかかわりの基礎に関すること  
 4 環境の把握 （1）保有する感覚の活用に関すること  
 5 コミュニケーション （1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること  
 （2）言語の受容と表出に関すること  
 7 目 標  
 ア 言葉がけに気付く / イ 言葉掛けに振り向く / ウ 言葉掛けに耳を傾ける  
 ア 話し手を見る / イ 話し掛けに応じる（表情・身振り・音声）  
 ア 音楽が流れていることに気付く / イ 音楽に合わせて身体の部位を動かす  
 ア 入れ物の中のものに触れる / イ 入れ物の中のもの握る /  
 ウ 入れ物の中から一つ取り出す  
 ア 出した物を仕舞う  
 ア 教師や友だちと触れ合う / イ 教師や友だちとの関わる ※（ア・イ・ウは段階）  
 8 展 開

学 習 内 容	生 徒 の 活 動	評 価 規 準
①はじめのあいさつ ♪「 <u>にじのむこうに</u> 」(歌) ♪「 <u>世界中の子どもたちが</u> 」(歌・楽器)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじまりの曲を意識する。</li> <li>・指導者の握手に応じる。</li> <li>・号令を意識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶に応じている。</li> <li>・楽器を（一つ）取ることができている。</li> <li>・楽器を仕舞うことができている。</li> </ul>
②触れ合い遊びの歌に合わせて活動する ♪「 <u>手と手と手と</u> 」(歌・動作) ♪「 <u>からだあそびのうた</u> 」(歌・動作) ♪「 <u>チエチエッコリ</u> 」(歌・動作) ♪「 <u>If you' re happy</u> 」(歌・動作) ♪「 <u>Safari animals Finger Family Song</u> 」 (歌・動作) ♪「 <u>Baby shark</u> 」(歌・動作) ♪「 <u>London Bridge</u> 」(歌・動作) ♪「 <u>おおかみさん</u> 」(歌・動作) ♪「 <u>Hokey Pokey</u> 」(歌・動作)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者・支援者と一緒に活動している。</li> </ul>
③ゲームをする ■「 <u>なきごえ、だ〜れ?</u> 」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>動画を見たり聞いたりして、動物を選ぶ。</u></li> <li>・<u>画面にタッチする。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示に耳を傾けている。</li> <li>・指示に応じている。</li> <li>・指導者や支援者の援助を受け入れている。</li> </ul>
④ 絵本を見たり聞いたりする 📖「 <u>Where' s Spot?</u> 」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見る/聞く。</li> <li>・絵本を読んでもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見ている/聞いている。</li> </ul>
⑤ 終わりのあいさつ ♪「 <u>あしたははれる</u> 」(歌)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おわりの曲を意識する。</li> <li>・指導者の握手に応じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶に応じている。</li> </ul>

※  は電子黒板を活用





## 指導略案：保健「人とのかかわり」①

高等部 FGグループ

日時： 11月18日（水）5,6限

ねらい：精神機能の発達と自己形成について、課題の解決をめざす。  
課題解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。

時間	内容	児童生徒の動き	指導上の留意点・支援のてだて等
13:00	挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりした声で挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい姿勢で語先後礼を守り、挨拶ができています。</li> </ul>
	出席確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調面も伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調がすぐれない場合等、すぐに教員に伝えるよう促す。</li> </ul>
13:05	本時の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者に注目する。</li> <li>説明をしている間は、静かに傾聴する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周りの友だちと話さずに集中して話を聞くことができる。</li> <li>アンケート内容のプライバシーを守り、発表することをしない。</li> <li>困難な状況になった場合、自発的に依頼することができる。</li> </ul>
	アンケート記入 (自身の成長について)		
13:20	①～④性被害や性暴力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>想定される状況をイメージする。</li> <li>自身の感想を伝える。</li> <li>どのように対応したらよいか、話し合う。またその内容をまとめ発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像が見やすい場所を促す。</li> <li>自分の意見で発表できる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な事案を例に出し、話し合う</li> <li>感想</li> <li>相談機関について</li> <li>アンケート結果を見直し、性被害を受けないために自身で気を付けることを考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の様子を見ながら、言葉かけを変えていく。</li> </ul>
14:10	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者に注目する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後まで集中して、振り返りを行うことができる。</li> </ul>
11:55	挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりした声で挨拶をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい姿勢で語先後礼を守り、挨拶ができています。</li> </ul>

準備物： 筆記用具 ・ アンケート用紙 ・ テレビ ・ タブレット端末



## 指導略案：保健「人とのかかわり」②

高等部 Gグループ

日時： 2月24日（金）5,6限

ねらい： 欲求に対処するための適応機制を知る。  
2つの働きからなる自尊感情を知る。  
ストレスに対する対処法を理論的、客観的に考える。


時間	内容	児童生徒の動き	指導上の留意点・支援のてだて等
13:00	挨拶  出席確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりした声で挨拶をする。</li> <li>体調面も伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい姿勢で語先後礼を守り、挨拶ができています。</li> <li>体調がすぐれない場合等、すぐに教員に伝えるよう促す。</li> </ul>
13:05	本時の説明  アンケート記入 (自己肯定感について)	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者に注目する。</li> <li>説明をしている間は、静かに傾聴する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周りの友だちと話さずに集中して話を聞くことができる。</li> <li>アンケート内容のプライバシーを守り、発表することをしない。</li> <li>困難な状況になった場合、自発的に依頼することができる。</li> </ul>
13:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的機能、情意機能、社会性と脳との関連について、機能の特性を知る</li> <li>自分の生活を振り返り、自分が過去に用いた適応機制の例を挙げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心は知的機能、情意機能、社会性等の精神機能の総体として捉える。</li> <li>自身の生活を振り返り、感想を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像が見やすい場所を促す。</li> <li>自分の意見で発表できる。</li> <li>自己を客観的に考えることができる。</li> <li>生徒の様子を見ながら、言葉かけを変えていく。</li> </ul>
14:10	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者に注目する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後まで集中して、振り返りを行うことができる。</li> </ul>
11:55	挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりした声で挨拶をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい姿勢で語先後礼を守り、挨拶ができています。</li> </ul>



# GIGA スクール構想 1人1台端末 活用事例

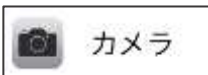



## カメラ機能を使った個別学習での児童の活動記録

教科・領域	自立活動・個別学習・キャリアアップタイム 等
名称	カメラ機能を使った個別学習での児童の活動記録
写真 使用方法	<p>① 個別学習での様子を各児童の1人1台端末（iPad）の『カメラ』アプリで写真や動画を撮影する。</p> <p>（例：スパイダーシステムやファシリテーションボールを用いた身体の活動）</p> <p>② 撮影した写真／動画を『写真』アプリで視聴する。</p> <p>③ 写真については、特記事項を編集メニューの『マークアップ』機能を使ってタッチペンで直接記入する。</p> <p>撮影した写真／動画をアセスメントや評価の材料として活用する。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末（iPad）</li> <li>アプリ『カメラ』（標準アプリ）</li> <li>アプリ『写真』（標準アプリ）、編集メニュー（マークアップ機能 ）</li> <li>スマートフォン用の簡易タッチペン（100円ショップで購入。）</li> </ul>
使ってみて （効果・反省等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>撮影した写真／動画は、指導計画作成のためのアセスメントや評価、記録として活用することができた。</li> <li>マークアップ機能で、気づきをすぐに画像に文字や矢印などで直接書き込むことができ大変便利だった。</li> <li>視覚的に活動を振り返ることができ、その場では気づかなかったことを後に発見することもできた。</li> <li>1人1台端末なので、当該の児童データのみを残せる点が大きなメリットである。次年度以降の引継ぎにも使用することができる。</li> </ul>
その他・周辺機器	校内（一人一台端末用充電保管庫）



## スイッチを押して写真を撮ろう

教科・領域	せいかつ・自立活動・個別学習・キャリアアップタイム 他
名称	『スイッチを押して写真を撮ろう』
写真 使用方法	<p>学習例1： せいかつ：『春』を探そう</p> <p>① 各自が見つけて興味を持った花などを、一人一台端末（iPad）の『カメラ』アプリを使用して撮影する。</p> <p>② 振り返りの時間に、各自の端末を電子黒板にミラーリングし、撮影した写真を写しながら報告することで、活動を共有する。</p> <p>学習例2： インカメラで自分の姿を写そう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1人1台端末（iPad）の『カメラ』アプリで、インカメラ（ディスプレイ側のカメラ）を使用する。</li> <li>・ 鏡のように児童の顔・姿を映す。</li> <li>・ 撮影（自撮り）して、鑑賞する。</li> </ul> <p>※ 画面の任意の部分（シャッターボタン）をタップすることが難しい児童のために、スイッチとスイッチインターフェイスを組み合わせて使用する。</p>  
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1人1台端末（iPad）</li> <li>・ アプリ『カメラ』（標準アプリ）</li> <li>・ スイッチインターフェイス『iPad タッチャー』または『フックプラス』</li> <li>・ ビッグスイッチ他、児童の実態に応じたタイプのアクセシビリティ・スイッチ（参考）イヤホンジャックに接続するシャッターボタン（100 円均一ショップで購入。）も使える。</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童から離れた場所に咲く花でも拡大して手元で提示できる。画面に映る花等によく注目することができていた。</li> <li>・ ケーブルをつなぐだけで電子黒板にすぐにミラーリングすることができた。</li> <li>・ インカメラを使った自撮りでは、児童の反応も良く、画面に映る自分に向かって呼び掛けるように声を出したり、頭を動かしながら見つめたりする様子が見られた。</li> <li>・ スイッチ操作と撮影の因果関係を理解できるようになるためには、他のスイッチ教材も活用しながら、中長期的な取り組みが必要だと考える。</li> </ul>
その他・周辺機器	校内（1人1台端末用充電保管庫、ICT 支援機器貸出ロッカー） シャッターボタン 私物（100 円均一ショップで購入可能）





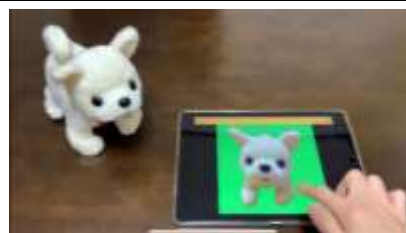
## 画面に触れて楽しもう

教科・領域	個別学習
名称	『画面に触れて楽しもう』～音・映像によるシンプルなタップゲームによる『因果関係の理解』を促す学習～
写真 使用方法	<p><b>事前にアクセスガイドをオンにする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初回設定方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「設定」&gt;「アクセシビリティ」&gt;「アクセスガイド」と選択してから、「アクセスガイド」をオンにします。</li> <li>② パスコード設定:「アクセスガイドのパスコードを設定」をタップしてから、パスコードを入力します。</li> <li>③ アクセシビリティのショートカット:アクセスガイドのセッション中のショートカットをオンにします。</li> <li>④ その他、任意で時間制限、画面の自動ロックを調整する。</li> </ol> </li> <li>使用アプリを起動する。</li> <li>ホームボタンを3回クリックし、『アクセスガイド』を選んでオンにする。(必要に応じて、タップ操作の無効画面の領域を設定する。) 「開始」をタップ。 これで、児童による操作中に『意図しないアプリの切り替わり』『広告リンクを開く』を防ぐことができます。</li> </ul> <p>※ 画面の任意の部分をタップすることが難しい児童のために、スイッチとスイッチインターフェイスを組み合わせて使用する。(使用したアプリ・機能・入出力支援機器等を参照)</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• GIGA スクール iPad (児童各自に割り当てたもの)</li> <li>• アクセシビリティ機能「アクセスガイド」(意図しないアプリの切り替わりや広告バナーなどの誤タップを防ぐために使用)</li> <li>• アプリ『Fluid』、『i♥Fireworks Lite (花火)』、『ピアノあそび』、『キラキラお絵かき for iPad』、『Horns』等、タップ操作のみで遊べる知育アプリ。</li> <li>• (視覚認知に困難がある児童の場合、必要に応じてスイッチとスイッチインターフェイスを用いる)</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 音や映像の変化に気づき、確かめるように何度も画面に触れる様子が見られた。特に『Fluid』では画面上に湧き出るように表示されるマーブリング模様を見て夢中でタップする児童がいた。</li> <li>• 画面をなでるように手で触れると意図せずにアプリが切り替わってしまうことがある。『設定』アプリのアクセシビリティ項目中の『アクセスガイド』をオンにしておく、一つのアプリで集中して使用することができるので、必須の設定である。</li> <li>• 視覚で対象をとらえることに困難がある児童については、スイッチとスイッチインターフェイスを併用し、スイッチ入力で音を楽しめるようにする。 『i♥Fireworks Lite (花火)』は興味を持ち、何度もスイッチに手をのばして入力できた。</li> </ul>
その他・周辺機器	



## 写真をタップしてチワちゃんと遊ぼう

教科・領域	自立活動・個別学習・キャリアアップタイム 他
名称	『写真をタップしてチワちゃんと遊ぼう』 VOCA と電動玩具の組み合わせ教材
写真 使用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>VOCA(音声出力コミュニケーション装置) アプリ『タッチ&amp;びーぷ』で、子犬の玩具のシンボルを作成する。(音声には歌『おもちゃのチャチャチャ』のサビを使用。)</li> <li>アプリ『タッチ&amp;びーぷ』とスマート乾電池『MaBeee』を連携させて、シンボルの音声(歌)が再生中に子犬の玩具が動くようにする。</li> <li>玩具の写真に触れると、玩具が動くという因果関係を意識しながら遊ぶ。</li> </ul> <p>※ 画面の任意の部分(シャッターボタン)をタップすることが難しい児童のために、スイッチとスイッチインターフェイスを組み合わせで使用。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末(iPad)</li> <li>スマート乾電池『MaBeee』</li> <li>アプリ『タッチ&amp;びーぷ』(アプリ内設定でMaBeeeと連携させる。再生中に玩具が作動するように設定する。)</li> <li>乾電池駆動の子犬(チワワ)の玩具</li> <li>スイッチインターフェイス『i+Pad タッチャー』</li> <li>ビッグスイッチ他、児童の実態に応じたタイプのアクセシビリティ・スイッチ</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの児童も繰り返し取り組む中で、ディスプレイに映る子犬の写真に触れると、実物の玩具の子犬が動くという因果関係に気づき、操作して遊べるようになった。歌が再生されることに興味を持つ児童もいて、聞きながら確かめるように画面に触れていた。</li> <li>スイッチを操作することで玩具が動き、音声再生されるVOCAと玩具の組み合わせ教材は、児童の主体性やコミュニケーションの意欲を伸ばすために有効な教材であると感じた。</li> </ul>
その他・周辺機器	校内(1人1台端末用充電保管庫、ICT支援機器貸出ロッカー) 子犬玩具 私物





## 先生と一緒に YouTube タイム

教科・領域	個別学習・キャリアアップタイム 他
名称	『先生と一緒に YouTube タイム』
写真 使用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>YouTube 等のインターネット上の動画・音楽メディアを、指導者と一緒に鑑賞し、そこで生まれる反応や、それに対する言葉がけなどのやりとりにより、コミュニケーションの経験を重ねる。</li><li>一つの画面を二人で見ることにより、自分と他者との『体験の共有』を感じられるようにする。</li></ul> ※ <b>【厳禁】必ず指導者が傍につき、端末を与えっぱなしにしないようにする。</b>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 AB 低グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"><li>一人一台端末 (iPad)</li><li>アプリ『YouTube キッズ』 子ども向けのコンテンツが豊富で、 ユーザーインターフェイスも直感的でわかりやすい。動画サムネイルも大きくて見やすく、選びやすい。</li></ul> ※ 初期設定時に保護者の年齢認証が必要であり、担当教員が代行した。Google workspace でのログインは行わない。
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>初めはやみくもに画面に触れたり、端末を抱え込んだりしていたが、それでは動画を楽しめないということを経験的に理解し、指導者の言葉がけや働きかけを受け入れ、落ち着いて視聴できるようになってきた。</li><li>興味あるシーンでは笑いながら指導者の顔を覗き込んで共感を求めたり、指導者の手を取って見たい動画のサムネイルに触れようとしたり、児童と端末と指導者の三項関係も見られるようになった。</li><li>『スマホ子守り』に代表されるようなネガティブな印象のある YouTube 動画の視聴だが、与えっぱなしにすることが問題なのであり、指導者と一緒に鑑賞し、体験を共有することで、有意義なコミュニケーションツールとしても機能することが実感できた。</li></ul>
その他・周辺機器	校内 (一人一台端末用充電保管庫、ICT 支援機器貸出ロッカー)







## 個別学習のスケジュールリング

教科・領域	自立活動(個別学習)_
名称	個別学習のスケジュールリング
写真 使用方法	<p>【使用方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学習で使用する教材の写真を撮る。</li> <li>② 写真を順番に並べる。</li> <li>③ 指導者が立てたスケジュールを一緒に確認する。</li> <li>④ 課題を行う。</li> <li>⑤ 課題が終わったら、画面を☆印をタッチし、次の課題へと移る。</li> </ol> 
対象児童生徒 学年・グループ	小学部3年 AB中グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	RITARICO「やること」アプリ
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題内容の見通しを持つことができた。</li> <li>・ 一つの課題が終わったら☆印を押し、次の課題へと進む流れはすぐに受け入れ、応じることができた。しかし、☆印が増えていたり、音が鳴ったりすることによって意欲を引き出す、という点についてはまだ少し難しかった。</li> </ul>
その他・周辺機器	



## 調べ学習（国語）

教科・領域	国語
名称	調べ学習
写真 使用方法	<p>(1) 学校のことを知る。</p> <p>① 知らないこと、知りたいことを整理する。</p> <p>② ネットでの検索や学校職員に質問することで調べる。</p> <p>(2) 調べたことをまとめる。</p> <p>① iPad 内のスライドを使用し、写真や文字の入力をして内容を整理する。</p> <p>② 完成したスライドを使用して発表する。</p> <p>↓ 児童が作成したスライドや発表の様子</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>村上先生 こんにちは 今日は本校の歴史について調べました。</p>  <p>調べたこと 昔の人が使っていたこと。</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>黒板で書いたこと</p>  <p>これは手紙です。</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>黒板で書いたこと</p>  <p>これは人の話を聞いてみる。</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> </div>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部6年 C高グループ 2名
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スライド</li> <li>・ カメラ（動画・写真）</li> <li>・ 大型テレビ</li> </ul>
使ってみて （効果・反省等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スライドのアプリはシンプルですぐに使い方を覚えて一人でも作成できるようになった。文字入力は自分でやりやすいように工夫するようになった。</li> <li>・ インタビューをしたり、作成したスライドを発表したりするという経験をすることで、相手を意識して伝わりやすいように話す工夫ができるようになった。（大きな声で話す、伝わりにくかったら文章にするなど）</li> <li>・ 写真撮影や動画撮影の際に、撮影していいかどうかを相手に確認することを学ぶことができた。</li> </ul>
その他・周辺機器	





## SDGs ってなに？

教科・領域	自立活動
名称	SDGs ってなに？
写真 使用方法	<p>① 1 階廊下に掲示された SDGs のポスターに興味を持ち、iPad で、興味のある部分を撮影した。</p> <p>② メモアプリに張り付けた。</p> <p>③ 「SDGs」を検索し、その結果を見て、YouTube で、児童向けの関連動画を選んで見た。</p> <p>④ 記録に短文を打ち込んだ。</p>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部 1 年 C 低グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"><li>• 写真アプリ</li><li>• メモ帳</li><li>• Google Chrome</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	<p>興味を持っていた言葉について、動画を見ることによって、内容の理解が深まった。入りに慣れていないが、慣れると、更に、検索がスムーズとなり、理解が深まるとともに、興味の幅が広がると考える。</p> <p>まだ 1 年生ということで、検索結果が難しい場合が多かったが、同時に、動画や写真も表示されるので、分かるものを選んで見た。</p> <p>動画はわかりやすかった。</p>
その他・周辺機器	





## かず・あそび、ひらがな

教科・領域	個別学習
名称	個別学習
写真 使用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分でアプリを開き、音声に従い課題に取り組む。</li> <li>平仮名のなぞり書きを指先でしたり、自分でまたは指導者と一緒に声に出して読む。</li> <li>数字のなぞり書きを指先でした後、声に出して読み、対応する量数の確認を自分でまたは指導者で行う。</li> </ul>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部1年 C低グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIGA スクール ipad (児童各自に割り当てたもの)</li> <li>アプリ『Goo bee かず・あそび』、『ひらがな』</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫された画像や音響効果により、興味を持ち、集中して楽しみながら課題に取り組むことができた。</li> <li>ひらがなの書き順の学習では、間違った方向には書き進めることが出来ない仕組みになっており、どうすれば良いか自分で考えながら書くことができた。</li> <li>数字をなぞった後で、数に対応した個数の具体物のイラストが出てくるが、次の映像への切り替わりが早く、ゆっくり数えることが難しいこともあった。</li> </ul>
その他・周辺機器	



## やることリスト

教科・領域	個別学習（かず）
名称	個別学習
写真 使用方法	<p><b>使用方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業で使用する具体物を撮影し、音声をふきこむ。</li> <li>フォルダを作成し、カードを授業内容の順番に並べる。</li> <li>授業始めに学習内容を確認、終わったら☆を押していく。</li> </ul>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部1年 C低グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	アプリ「やること」
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で活動内容を決めることができ、意欲をもって学習に取り組むことができた。</li> <li>一つの学習を終えるごとに『☆』を押し、見通しをもって活動することができた。</li> <li>音声で読み上げる機能があり、文字が読めない児童でも、写真と音声で内容を理解することができた。</li> <li>児童と一緒にカードを作成し、意欲を引き出すことができた。</li> </ul>
その他・周辺機器	



## 口の動き方の学習

教科・領域	自立活動
名称	キャリアアップタイム
写真 使用方法	<ol style="list-style-type: none"><li>① 「safari」でYouTubeを開く</li><li>② 「おくちのたいそうステップ1」を検索</li><li>③ 設定を開き「再生速度」を調整する</li><li>④ iPadの設定を開き「アクセスガイド」をオンにし、児童の誤操作で動画が止まらないようにする。</li><li>⑤ 動画スタート</li></ol>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部2年 C低グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	「safari」
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 再生速度の変更ができたので、児童の達成具合によって速度調整を行えた。</li><li>・ Kingbox等のアプリを入れ、広告なしで動画を見られるような環境設定を行えばよかった。</li><li>・ 動画中もiPadの画面を操作したくなるので「アクセスガイド」を使用し動画中のみ操作できないようにした。最初は、規制をかける箇所を何度か変更した。</li></ul>
その他・周辺機器	



## プレゼンテーションアプリの活用

教科・領域	自立活動
名称	個別
写真 使用方法	使用方法 <ul style="list-style-type: none"><li>必要なことを調べる。</li><li>パワーポイントに音声入力機能で文字を入力する。</li><li>挿入する写真を選ぶ。</li><li>見せたい先生を決め、パワーポイントを見せながら説明に行く。</li></ul>
対象児童生徒 学年・グループ	小学部3年 C低グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"><li>「パワーポイント」</li><li>「safari」</li><li>「カメラ」</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>パワーポイントにまとめることで、調べたことを整理することができ、本児も自分で見返すなどわかりやすくなった。</li><li>パワーポイントに記録したいという気持ちから、日々の青虫の成長を写真で撮影したり、餌をあげたりなど意欲的に取組めた。</li><li>パワーポイントにまとめたことで達成感が生まれ、他の先生に見せたいという気持ちがわき、自ら他の先生に関わりに行くことでできた。</li><li>ひらがな文字入力を試したが、キーボードの文字が小さく見つけることに時間がかかったため、音声入力にした。</li></ul>
その他・周辺機器	






## iPad の基本操作、調べ学習

教科・領域	総合的な学習の時間、自立活動
名称	iPad の基本的な操作方法、調べ学習
写真 使用方法	2人1台の iPad を使用し、基本的な操作方法や調べ学習を行った。
対象児童生徒 学年・グループ	中学部 1, 2, 3 年 FG グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• AirDrop</li> <li>• Safari</li> <li>• カメラ、写真、メモ</li> </ul>
使ってみて (効果・反省等)	<p>情報機器操作の基本であるアカウントやパスワードの管理、電源の ON、OFF など自分一人で行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ログイン時に必要な、アカウントやパスワードの意味を知る。</li> <li>② パスワードを自分で考える</li> <li>③ パスワードを自分で入力し、ログインする</li> <li>④ ログアウトの意味を知り、自分で終了する</li> <li>⑤ iPad の保管、管理の方法を知る。</li> <li>⑥ QR コードの意味や使い方を知る。</li> </ol> <p>また使い慣れた頃に、チェックリストを用いて自分のできることなどを確認した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自分の iPad の番号がわかる</li> <li>② ふたをあけて、テーブルに立てることができる</li> <li>③ パスコード6桁を入力することができる</li> <li>④ ボリュームを調節できる</li> <li>⑤ ホームボタンの使い方を知っている</li> <li>⑥ インターネットを見ることができる</li> <li>⑦ Siri を使って検索できる</li> <li>⑧ iPad の保管、管理の方法を知る。</li> </ol> <p>毎日取り組むことで、操作方法を習得することができた。調べ学習時に、AirDrop を使用することで、友だちと情報を共有することができた。iPad 活用のルールを守りながら、大切に扱うことができた。</p>
その他・周辺機器	



## iPad の基本操作、調べ学習

教科・領域	自立活動
名称	個別
写真 使用方法	
対象児童生徒 学年・グループ	高等部2年 DE グループ
使用したアプリ・ 機能・ 入出力支援機器等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「写真」</li><li>・ 「カメラ」</li><li>・ 「PowerPoint」</li><li>・ 「safari」 など</li></ul>
使ってみて (効果・反省等)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 保護者との面談で生徒一人が映っている動画を部主事同席のもと、お見せした。1人1台端末で、いつでも活動の様子を撮影することができるため、生徒の積極的に活動している場面を撮影することが可能になった。</li><li>・ 視線入力の GazeTrace を iPad で撮影することで、生徒がどこを見ているか後から評価することができた。また教員の口頭指示するものを見ていることが確認できた。その様子を保護者に見ていただき、喜んでいただけた。</li></ul>
その他・周辺機器	iPad タッチャー、ピックスイッチなど

